

独立行政法人 農畜産業振興機構  
養豚経営対策補完事業

(養豚農業実態調査)

# 国内由来飼料使用実態調査全国集計結果

平成27年度

平成28年3月

一般社団法人 日本養豚協会



## 調査結果の概要

平成27年度養豚農業実態調査の一環として、養豚生産者の方々の国内飼料用米及びエコフィードの利用実態を調査し、これらをより利用しやすくしコスト削減に資することを目的に実施しました。調査対象は、「平成21年度養豚基礎調査で回答があった養豚経営者又は農場責任者」と「都道府県養豚協会が27年8月1日現在確認できている養豚経営者又は農場責任者」を対象としております。

原則、農場単位での調査となっておりますが、実際には経営体単位での回答も多く、「農場」とは経営体としての回答も混在しています。

回答農場数は回答した農場の数を示し、回答数は、設問毎の回答数を示しているため、複数回答の設問については、回答数が回答農場数を上回る場合があります。

また、同じ項目でありながら回答数、回答農場数に差異が生じているのは、対応する項目の回答数、回答農場数が異なることによるものです

## 1. 調査回答状況

平成27年度の調査は、「平成21年度養豚基礎調査で回答があった養豚経営者又は農場責任者」と「都道府県養豚協会等が27年8月1日現在確認できている養豚経営者又は農場責任者」を対象（4,154件）に調査を実施した。

回答が得られたのは**1,266**農場（廃業等を含む）で全国集計結果の集計に使用したのは、回答の中から廃業、無効を除いた**872**農場である。

## 2. 給与飼料

### 1 飼料給餌体系

飼料給餌体系をみると、「市販飼料のみ」が**78.4%**と最も多くの農場が使用しており、次いで「市販配合飼料＋自家配合飼料」が**16.8%**、「自家配合飼料のみ」が**4.7%**となっている。

### 2 年間使用量

給与飼料の使用量は**228万**トンであり、その種類別内訳は「配合飼料」が**206万4千**トンと最も多く、「エコフィード」**15万9千**トン、「その他」**3万7千**トン、「飼料用米」**2万**トンの順となっている。

#### エコフィードの詳細

配合飼料の原料にエコフィードが含まれる場合は、「エコフィード」の利用量は配合飼料の利用量を記入していただいているが、そのエコフィードの配合割合の平均は35%であり、また、自ら、加熱乾燥、発酵、液状化等の加工処理を行っている場合の食品残さ受入数量は**5万3千**トンとなっている。

### 3. 飼料用米（意図せず飼料用米に含まれるものは除く。）

#### 1 飼料米の使用の有無

飼料用米の使用状況について、「使用したことがない」が82.7%と最も多く、「現在使用」が15.5%、「過去に使用」が1.8%の順となっている。

また、「現在使用」の平均使用量（使用量の回答があったもの。以下同じ。）は314.9 t、「過去に使用」の平均使用量は11.3 tである。

#### 2 飼料用米の今後の利用動向（複数回答）

飼料用米の今後の利用動向についてみると、「利用を継続」12.3%、「利用を拡大」8.4%、「利用を開始」したい19.1%となっている。一方、「使用割合を減少」0.3%、「使用を中止」0.6%となっている。

#### 3 調達・入手方法（複数回答）

飼料用米の調達・入手方法について回答農場数に対する割合をみると、「配合飼料メーカーからの購入」が50.7%と最も多く、「稲作農家、集荷業者・業者等」が47.4%、「自ら飼料用米を生産」が13.1%の順となっている。「配合メーカーからの購入」の内訳をみると、「飼料用米を配合した飼料を購入」が43.1%と大半を占めている。

#### 4 給与形態（複数回答）

飼料用米の給与形態を回答農場数に対する割合でみると、「玄米」の給与が82.2%と多く、「粳米」は21.9%と少ない。

#### 5 加工・利用形態（加工方法・配合方法は複数回答有）

加工の有無については90.3%が加工しており、その加工方法は「粉碎・破砕」の割合が88.8%となっている。配合方法は、「配合飼料として製造を委託」が51.5%となっており「自ら加工し配合」が36.5%と続いている。

#### 6 飼養ステージごとの給与（配合）割合

飼料用米の飼養ステージごとの給与（配合）割合についてみると142農場から回答があり、平均の給与割合は18.5%であった。北陸が22.1%と最も多く、近畿が10.0%と少ない。

#### 7 買取価格

買取価格の平均は27.7円/kg、加工した場合の加工賃は平均16.0円/kgとなっている。買取価格に加工賃を含むか否かについて、68.3%が含むとしている。

## 8 費用負担

保管の費用負担については、「調達先が負担」が 51.4%、「養豚農家が負担」48.6%とほぼ半々の結果となっている。また、運搬については「調達先が負担」が 54.8%となっており、加工については「養豚農家が負担」が 52.6%となっている。

### 9-1 飼料用米によるブランド化

- ① 飼料用米使用による豚肉のブランド化についてみると、ブランド化している割合は 32.6%となっている。
- ② 25農場からブランド名をつけて出荷しているとの回答があったが、出荷豚におけるブランド豚の割合は8%となっており、また、枝肉価格は平均1.6割程度高く出荷、小売価格は2.8割程度高く販売している。

### 9-2 六次化への取組状況

飼料用米の六次化の取組状況については、162農場から回答があり、六次化への取組があるものが37農場 22.8%となっている。

## 10 飼料用米に関する情報

飼料用米の供給・提供に関する情報の入手先についてみると、「農協等農業関係団体」からの入手が 42.9%と最も多く、次いで「配合飼料メーカー」33.9%、「所属団体」23.2%、「普及員等の行政機関」14.3%の順となっている。

## 11 今後の方針・課題

- ① 平成 27 年度の利用見込量は 99 農場から回答があり、それらの平成 27 年度の平均利用見込量は 460 t となっている。「当面の最大利用量」については 73 農場から回答があり、当面の平均最大利用量は 553 t となっている。
- ② 今後の飼料用米の利用意向をみると、給与頭数では「給与頭数を増やしたい」32.1%、「給与頭数を維持する」66.7%となっており両方で 98.8%となっている。給与割合では、「給与割合を増やしたい」49.4%、「給与割合を維持する」50.6%となっており「給仕割合を減らしたい」はなかった。
- ③ 飼料用米の利用にあたっての課題

現在の飼料用米の利用の有無に関わらず、飼料用米の利用にあたって課題があれば記入していただいた。その記述内容の主なものは、次の通りとなっている。

- ・ 価格（安価、年間を通じて価格の平準化）
- ・ 数量（数量の安定確保、年間を通しての供給、入手先の確保、飼料会社が配合してくれるなら利用）

- ・加工（粉砕設備、加工賃、配合の手間）
- ・保管（保管場所、保管費用）
- ・流通（コスト、地域の流通システムが未整備）
- ・飼養成績（栄養価がわからない、発育への影響、豚の消化率、飼料要求率の悪化、配合割合）
- ・肉質等（肉質への影響、肉色、バラツキ）
- ・環境（ふん尿量増大）
- ・出荷先の意向
- ・農家補助金（継続性の不安）

## 4. エコフィード

### 1 エコフィード利用の有無と今後の動向

- ① エコフィードの使用状況について、「利用あり」が **21.9%** となっている。
- ② 今後の意向をみると、「利用を検討中」が **3.0%**、「利用してみたい」が **8.4%** となっており両者合わせても **11.4%** と少ない。「利用を検討中」の年間平均予定数量は、**1,001 t** となっている。

### 2 調達方法（複数回答）

- ① エコフィードの調達方法をみると、「食品事業者から入手」が **62.1%** と最も多く、次いで「リサイクル業者から入手」が **36.8%**、「飼料販売業者から購入」が **14.1%** の順となっている。
- ② 「食品事業者から入手」の内訳をみると、「有価で購入」が **37.3%** となっており、「無償」が **22.2%**、「飼料化料金を徴収」が **10.8%** となっている。
- ③ その他は、自家農場、他農場、ゴミ処理業者、出荷業者などからの購入である

### 3 利用しているエコフィードの主な原料（複数回答）

利用しているエコフィードの主な原料は、「食品製造副産物」が **75.6%** と最も利用が多く、次いで「余剰食品」が **40.5%**、「調理くず」が **29.8%** となっている。

### 4 エコフィードの給与形態

エコフィードの給与形態をみると、「ドライ」が **39.1%** と最も多く、「リキッド」 **29.9%**、「エコフィードを原料に含む配合飼料」 **27.6%** の順となっている。

### 5 認証エコフィードの利用

認証エコフィードの利用の有無をみると、「あり」は **11.1%** となっている。

## 6 飼養ステージごとの給与（配合）割合

飼養ステージごとの給与（配合割合）についてみると 174 農場から回答があり、平均の給与割合は 40.5% であった。

## 7 取引価格

「エコフィードの原料価格」の平均は 111.2 円/kg、「エコフィードの名称・品名の取引価格」の平均は 52.3.0 円/kg となっている。

また、「エコフィードを含む配合飼料の購入価格」の平均は 29.0 円/kg となっている。

## 8 食品リサイクル法、廃棄物処理法上の許可等の状況

食品リサイクル法、廃棄物処理法の許可等の状況にみると、57 農場について回答があった。

### 9-1 エコフィード利用によるブランド化

- ① エコフィード利用による豚肉のブランド化についてみると、「ブランド化有」は 28.4% となっている。
- ② 40 農場からブランド名をつけて出荷しているとの回答があったが、出荷豚におけるブランド豚の割合は 6.6% となっており、また、枝肉価格は 2.2 割程度高く出荷、小売価格は 2.3 割程度高く販売している。

### 9-2 六次化への取組状況

エコフィードの六次化の取組状況については、68 農場から回答があり、六次化への取組があるものが 17 農場、25.0% となっている。

## 10 エコフィード利用畜産物認証の利用

- ① エコフィード利用畜産物の利用の有無についてみると、「あり」は 8 農場で関東が 4 農場で最も多い。
- ② 今後のエコフィード利用畜産物認証制度の利用見込みについてみると、「あり」は 2 農場のみであった。

## 11 今後の方針・課題

- ① 「平成 27 年度の利用見込量」は 108 農場から回答があり、それらの平成 27 年度の平均利用見込量は 1,486 t となっている。「当面の最大利用量」については 85 農場から回答があり、当面の平均最大利用量の平均は 1,422 t となっている。
- ② 今後の飼料用米の利用意向をみると、給与頭数では「給与頭数を増やしたい」28.6%、「給与頭数を維持する」67.0% となっており両方で 95.6% となっている。給与割合では、「給与割合を増やしたい」33.7%、「給与割合を維持する」63.4% となっており 両方で 97.1% となっている。

### ③ エコフィードの利用にあたっての課題

現在のエコフィードの利用の有無に関わらず、エコフィードの利用にあたって課題があれば記入していただいた。その記述内容の主なものは、次の通りとなっている。

- ・ 価格（安価、年間を通じて価格の平準化）
- ・ 数量（数量の安定確保、原料の定期的な調達、入手先の確保、飼料会社が配合してくれるなら利用）
- ・ ブレンドする施設、給餌ラインの設備費用
- ・ 処理に手間、労力がかかる、ノウハウがない
- ・ 保管（保管場所、保管費用）
- ・ 輸送コスト
- ・ 飼育成績（栄養価がわからない、発育への影響、飼料要求率の悪化、配合割合）
- ・ 肉質等（肉質への影響、肉色、バラツキ）
- ・ 環境（衛生、病原性の対策、ふん尿量増大）
- ・ 出荷先の意向
- ・ 情報
- ・ エコ認証を受けてもメリットがない
- ・ 繁殖、あるいはブランド豚であるため使用しない。

## 5. その他の国内由来飼料

その他の国内由来飼料についてみると、28 農場 42 件の回答がありその平均年間使用量は 102.5t であった。



# 集計表

[表記方法の説明]

1. 表中の赤字及び青字は説明文に使用した数値です。
2. 全国、全体以外の赤字は、全国、全体よりも値が大きいもの、青字は全国、全体よりも値が小さいものを表しています。

## I 給与飼料

### 1 飼料給餌体系

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
市販飼料のみ	回答数	662	171	203	29	46	9	52	152
	構成比(%)	78.4	85.9	78.7	70.7	85.9	47.4	73.2	77.9
市販配合飼料＋ 自家配合飼料	回答数	142	24	42	10	14	7	14	31
	構成比(%)	16.8	12.1	16.3	24.4	12.1	36.8	19.7	15.9
自家配合飼料のみ	回答数	40	4	13	2	1	3	5	12
	構成比(%)	4.7	2.0	5.0	4.9	2.0	15.8	7.0	6.2
合計	回答数	844	199	258	41	61	19	71	195
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

- ① 飼料給餌体系をみると、「市販飼料のみ」が 78.4 %と最も多くの生産者が使用しており、次いで「市販配合飼料＋自家配合飼料」が 16.8 %、「自家配合飼料のみ」が 4.7 %となっている。
- ② 地域別の割合をみると、すべての地域で「市販飼料のみ」使用の割合が高く、北海道・東北、東海がそれぞれ 85.9 %で最も多く、近畿が 47.4 %と最も少ない。  
「市販配合飼料＋自家配合飼料」は近畿が 36.8 %と最も多く、北海道・東北、東海がそれぞれ 12.1 %と最も少ない。また「自家配合飼料のみ」は近畿が 15.8 %と最も多く、北海道・東北、近畿がそれぞれ 2.0 %で最も少ない。

### 2 年間使用量

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
配合飼料	合計数量(千t)	2,064	675	588	49	95	9	134	513
	構成比(%)	100.0	32.7	28.5	2.4	4.6	0.5	6.5	24.9
	平均数量(t)	2,723	3,612	2,513	1,348	1,818	671	2,169	2,968
飼料用米	合計数量(千t)	20	9	5	1	1	0	1	3
	構成比(%)	100.0	43.3	25.3	5.9	4.2	0.0	4.0	17.3
	平均数量(t)	225	398	233	62	283	1	82	291
エコフィード	合計数量(千t)	159	4	70	5	23	6	10	41
	構成比(%)	100.0	2.5	43.8	3.1	14.8	3.7	6.6	25.6
	平均数量(t)	1,158	235	1,617	442	2,341	528	654	1,399
その他	合計数量(千t)	37	7	7	0	2	0	5	16
	構成比(%)	100.0	19.2	19.0	0.0	4.6	0.6	14.3	42.3
	平均数量(t)	338	310	283	5	190	36	313	542
合計	合計数量(千t)	2,280	695	670	55	121	15	151	573
	構成比(%)	100.0	30.5	29.4	2.4	5.3	0.7	6.6	25.1
	平均数量(t)	2,875	3,660	2,814	1,364	2,152	907	2,222	3,116
回答農場数		793	190	238	40	56	17	68	184

- ① 給与飼料の使用量は 228 万トンであり、その種類別内訳は「配合飼料」が 206 万 4 千トンと最も多く、「エコフィード」15 万 9 千トン、「その他」3 万 7 千トン、「飼料用米」2 万トンの順となっている。
- ② 給与飼料を種類別、地域別にみると、「配合飼料」では北海道・東北が 32.7 %と最も多く、「エコフィード」では関東 43.8 %、「飼料用米」では北海道・東北 43.3 %と多くなっている。

## 2-1 エコフィードの詳細

区分	全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
年間使用量(再掲、千t)	159	4	70	5	23	6	10	41
配合割合(平均、%)	35	25	41	36	47	52	25	28
食品残さ受入数量	53	6	10	1	23	4	5	3
回答農場数	793	190	238	40	56	17	68	184

- ① 配合飼料の原料にエコフィードが含まれる場合は、「エコフィード」の利用量は配合飼料の利用量を記入していただいているが、そのエコフィードの配合割合の平均は **35%** であり、また、自ら、加熱乾燥、発酵、液状化等の加工処理を行っている場合の食品残さ受入数量は **5万3千トン** となっている。
- ② エコフィードの配合割合を地域別にみると、近畿が **52%**、東海が **47%** と高い。また、食品残さ受入数量が東海が **2万3千トン** と最も多い。

## 2-2 その他の具体的な品名と数量(t) (任意に分類したもの)

区	分	年間使用量(t)
パン(パン、パンくず、パン生地、パン粉など)		3,770
菓子残さ(菓子粉、菓子くず、せんべい、せんべい粕、チョコレートなど)		4,217
残飯(病院残さ、自衛隊残さなど)		2,002
乳製品(チーズ、ホエー、脱脂粉乳など)		443
農産物(イモ、カボチャ、ジャガイモ、トウモロコシ、甘藷、野菜くず、落花生粕、黒豆など)		3,541
麦(くず麦、小麦、小麦粉、大麦、麦圧パンなど)		3,485
米(くず米、米ぬか、米粉、MA米など)		2,940
飼料(牧草、二種混合飼料など)		6,384
麺(やきそば、ラーメン、うどんなど)		394
食品残さ(ビール粕、焼酎粕、おから、菜種粕、大豆粕、天かす、ポテトピールなど)		7,161
記入なし		2,856
計		37,193

## II 飼料用米(意図せず飼料用米に含まれるものは除く。)

### 1 飼料米の使用の有無

区分	全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄	
現在使用	回答数	135	35	42	23	7	1	13	14
	構成比(%)	15.5	17.2	16.0	53.5	17.2	5.3	17.6	6.7
	平均使用量(t)	314.9	837.5	202.1	59.4	163.3	0.0	107.9	202.2
過去に使用	回答数	16	2	4	0	2	2	2	4
	構成比(%)	1.8	1.0	1.5	0.0	1.0	10.5	2.7	1.9
	平均使用量(t)	11.3	2.0	20.0	0.0	0.0	1.0	1.0	18.5
使用したことがない	回答数	721	166	216	20	54	16	59	190
	構成比(%)	82.7	81.8	82.4	46.5	81.8	84.2	79.7	91.3
合計	回答数	872	203	262	43	63	19	74	208
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
回答農場数	872	203	262	43	63	19	74	208	

- ① 飼料用米の使用状況について、「使用したことがない」が **82.7%** と最も多く、「現在使用」が **15.5%**、「過去に使用」が **1.8%** の順となっている。
- また、「現在使用」の平均使用量(使用量の回答があったもの。以下同じ。)は **314.9 t**、「過去に使用」の平均使用量は **11.3 t** である。
- ② この使用状況の地域別の割合をみると、「現在使用」では北陸 **53.5%**、「使用したことがない」**91.3%** となっている。

## 2 飼料用米の今後の利用動向（複数回答）

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
利用を継続	回答数	97	25	26	19	5	2	8	12
	割合(%)	12.3	13.2	10.3	45.2	13.2	11.8	11.8	7.4
	平均使用量(t)	223.7	352.8	223.0	107.7	10.0	0.0	180.1	287.8
利用を拡大	回答数	66	21	22	8	2	2	4	7
	割合(%)	8.4	11.1	8.7	19.0	11.1	11.8	5.9	4.3
	平均使用量(t)	1,003.3	2,175.0	547.3	236.7	550.0	3.0	780.0	376.0
使用を開始	回答数	150	30	58	6	17	3	9	27
	割合(%)	19.1	15.9	22.9	14.3	15.9	17.6	13.2	16.6
	平均使用量(t)	380.5	511.8	336.8	80.2	233.5	790.0	146.7	587.2
使用割合を減少	回答数	2	0	2	0	0	0	0	0
	割合(%)	0.3	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平均使用量(t)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
使用中を中止	回答数	5	1	0	0	0	1	3	0
	割合(%)	0.6	0.5	0.0	0.0	0.5	5.9	4.4	0.0
今後も使用しない	回答数	485	117	149	14	31	10	44	120
	割合(%)	61.6	61.9	58.9	33.3	61.9	58.8	64.7	73.6
合計	回答数	805	194	257	47	55	18	68	166
	割合(%)	102.3	102.6	101.6	111.9	102.6	105.9	100.0	101.8
回答農場数		787	189	253	42	55	17	68	163

① 飼料用米の今後の利用動向についてみると、「利用を継続」12.3%、「利用を拡大」8.4%、「使用を開始」したい19.1%となっている。一方、「使用割合を減少」0.3%、「使用中を中止」0.6%となっている。

② これを地域別にみると、「使用を開始」したい割合が多いのは、関東が22.9%と最も多く、次いで近畿が17.6%となっている。また、「利用を継続」したいの割合が多いのは北海道・東北が13.2%、次いで近畿、中国・四国がそれぞれ11.8%となっており、「利用を拡大」したい割合の最も多いのは北陸の19.0%となっている。

## 3 調達・入手方法（複数回答）

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
稲作農家、集荷業者・業者等	回答数	99	15	24	20	12	3	10	15
	割合(%)	47.4	35.7	33.3	90.9	35.7	100.0	58.8	48.4
自ら飼料用米を生産	回答数	28	10	5	5	0	2	1	5
	割合(%)	13.4	23.8	6.9	22.7	23.8	66.7	5.9	16.1
配合メーカーから購入	回答数	106	26	45	6	10	0	5	14
	割合(%)	50.7	61.9	62.5	27.3	61.9	0.0	29.4	45.2
飼料用米として購入	回答数	8	2	2	3	0	0	0	1
	割合(%)	3.8	4.8	2.8	13.6	4.8	0.0	0.0	3.2
飼料用米を配合した飼料を購入	回答数	90	22	38	3	10	0	5	12
	割合(%)	43.1	52.4	52.8	13.6	52.4	0.0	29.4	38.7
その他	回答数	7	1	2	2	0	0	1	1
	割合(%)	3.3	2.4	2.8	9.1	2.4	0.0	5.9	3.2
合計	回答数	240	52	76	33	22	5	17	35
	割合(%)	114.8	123.8	105.6	150.0	123.8	166.7	100.0	112.9
回答農場数		209	42	72	22	22	3	17	31

① 飼料用米の調達・入手方法について回答農場数に対する割合をみると、「配合飼料メーカーからの購入」が50.7%と最も多く、「稲作農家、集荷業者・業者等」が47.4%、「自ら飼料用米を生産」が13.4%の順となっている。「配合メーカーからの購入」の内訳をみると、「飼料用米を配合した飼料を購入」が43.1%と大半を占めている。

② 地域別にみると、「配合メーカーから購入」の割合が高いのは北海道・東北、東海がそれぞれ61.9%と高い。「稲作農家、集荷業者・集荷業者・業者等」は近畿100.0%、北陸90.9%と高く、「自ら飼料用米を生産」は近畿が66.7%と高い。

#### 4 給与形態(複数回答)

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
①粳米	回答数	37	7	17	2	2	3	3	3
	割合(%)	21.9	20.6	32.1	8.0	20.6	75.0	20.0	12.5
②玄米	回答数	139	27	42	23	12	1	12	22
	割合(%)	82.2	79.4	79.2	92.0	79.4	25.0	80.0	91.7
合計	回答数	176	34	59	25	14	4	15	25
	割合(%)	104.1	100.0	111.3	100.0	100.0	100.0	100.0	104.2
回答農場数		169	34	53	25	14	4	15	24

- ① 飼料用米の給与形態を回答農場数に対する割合で見ると、「玄米」の給与が 82.2 % と多く、「粳米」は 21.9 % と少ない。
- ② これを地域別にみると、「玄米」では北陸 92.0 % と最も多く、次いで九州・沖縄 91.7 % であり、「粳米」では近畿 75.0 % が最も多く、関東が 32.1 % となっている。

#### 5 加工・利用形態(加工方法・配合方法は複数回答有)

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
加工の有無	回答数	176	35	57	27	14	4	13	26
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
あり	回答数	159	34	51	25	12	3	10	24
	構成比(%)	90.3	97.1	89.5	92.6	85.7	75.0	76.9	92.3
なし	回答数	17	1	6	2	2	1	3	2
	構成比(%)	9.7	2.9	10.5	7.4	14.3	25.0	23.1	7.7
加工方法 (加工有り回答)	回答数	162	34	51	27	13	3	11	23
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
粉砕・破碎	回答数	144	30	43	25	12	3	10	21
	構成比(%)	88.9	88.2	84.3	92.6	92.3	100.0	90.9	91.3
圧ベン	回答数	10	3	4	1	1	0	0	1
	構成比(%)	6.2	8.8	7.8	3.7	7.7	0.0	0.0	4.3
その他	回答数	8	1	4	1	0	0	1	1
	構成比(%)	4.9	2.9	7.8	3.7	0.0	0.0	9.1	4.3
配合方法 (加工有り回答)	回答数	167	35	55	25	15	3	11	23
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
自ら加工し配合	回答数	61	15	16	9	3	3	6	9
	構成比(%)	36.5	42.9	29.1	36.0	20.0	100.0	54.5	39.1
加工委託したものを自ら配合	回答数	20	0	4	10	4	0	0	2
	構成比(%)	12.0	0.0	7.3	40.0	26.7	0.0	0.0	8.7
配合飼料として製造を委託	回答数	86	20	35	6	8	0	5	12
	構成比(%)	51.5	57.1	63.6	24.0	53.3	0.0	45.5	52.2
回答農場数		167	35	55	25	15	3	11	23

- ① 加工の有無については 90.3 % が加工しており、その加工方法は「粉砕・破碎」の割合が 88.8 % となっている。配合方法は、「配合飼料として製造を委託」が 51.5 % となっており「自ら加工し配合」が 36.5 % と続いている。
- ② 地域別にみると、加工の有無については北海道・東北 97.1 % が加工している。どの地域も「粉砕・破碎」が多く、配合方法については「配合飼料として製造を委託」が関東 63.6 % と高くなっている。

## 6 飼養ステージごとの給与（配合）割合

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
飼養ステージ	回答数	215	55	67	36	12	4	18	23
	構成比(%)	100.0	25.6	31.2	16.7	5.6	1.9	8.4	10.7
平均給付割合	(%)	18.5	19.4	17.4	22.1	10.2	10.0	16.6	20.9
回答農場数	(場)	142	30	46	24	10	4	13	15

- ① 飼料用米の飼養ステージごとの給与（配合）割合についてみると 142 農場から回答があり、平均の給付割合は 18.5 %であった。北陸が 22.1 %と最も多く、近畿が 10.0 %と少ない。
- ② 各農場によって給与割合はまちまちであるが、大まかに飼養ステージごとに整理すると次のようになっている、

子豚（平均 17 %）、子豚後期（17 %）、子豚前期（15 %）、種豚（35 %）、全体（5 %）、肥育後期（17 %）、肥育前期（18 %）、肥育全期（19 %）、肥育中期（15 %）、母豚（18 %）、母豚妊娠期（70 %）、母豚哺乳期（10 %）

## 7 買取価格

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
買取価格(平均)	回答数	74	15	25	14	6	1	5	8
	(円/kg)	27.7	28.5	28.4	22.2	28.5	25.0	33.2	29.6
加工した場合の加工賃(平均)	回答数	13	4	4	3	1	0	0	1
	(円/kg)	16.0	22.2	16.0	18.8	22.2	0.0	0.0	11.1
買取価格に加工賃を含むか否か	回答数	41	10	14	9	2	1	1	4
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
含む	回答数	28	8	6	7	2	0	1	4
	構成比(%)	68.3	80.0	42.9	77.8	100.0	0.0	100.0	100.0
含まない	回答数	13	2	8	2	0	1	0	0
	構成比(%)	31.7	20.0	57.1	22.2	0.0	100.0	0.0	0.0

- ① 買取価格の平均は 27.7 円/kg、加工した場合の加工賃は平均 16.0 円/kg となっている。買取価格に加工賃を含むか否かについて、68.3 %が含むとしている。
- ② これを地域別にみると、買取価格の平均は中国・四国が 33.2 円/kg と最も高く、北陸が 22.2 円と低い。
- 加工した場合の加工賃は、北海道・東北、東海がそれぞれ 22.2 円/kg と高い結果となっており、九州・沖縄が 11.1 円/kg と低い。買取価格に含むか否かについては、北陸、近畿を除いて含むとした割合が高い。

## 8 費用負担

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
①保管	回答数	107	24	28	24	8	1	8	14
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
養豚農家	回答数	52	13	16	7	6	1	5	4
	構成比(%)	48.6	54.2	57.1	29.2	75.0	100.0	62.5	28.6
調達先	回答数	55	11	12	17	2	0	3	10
	構成比(%)	51.4	45.8	42.9	70.8	25.0	0.0	37.5	71.4
②運搬	回答数	104	24	28	18	8	2	10	14
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
養豚農家	回答数	47.0	12.0	11.0	8.0	4.0	2.0	4.0	6.0
	構成比(%)	45.2	50.0	39.3	44.4	50.0	100.0	40.0	42.9
調達先	回答数	57.0	12.0	17.0	10.0	4.0	0.0	6.0	8.0
	構成比(%)	54.8	50.0	60.7	55.6	50.0	0.0	60.0	57.1
③加工	回答数	97	24	28	17	8	1	5	14
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
養豚農家	回答数	51.0	14.0	17.0	6.0	4.0	1.0	3.0	6.0
	構成比(%)	52.6	58.3	60.7	35.3	50.0	100.0	60.0	42.9
調達先	回答数	46.0	10.0	11.0	11.0	4.0	0.0	2.0	8.0
	構成比(%)	47.4	41.7	39.3	64.7	50.0	0.0	40.0	57.1
回答農場数(①～③)		110	24	31	21	8	2	9	15

- ① 保管の費用負担については、「調達先が負担」が 51.4 %、「養豚農家が負担」48.6 % とほぼ半々の結果となっている。また、運搬については 「調達先が負担」が 54.8 % となっており、加工については「養豚農家が負担」が 52.6 %となっている。

## 9-1 飼料用米によるブランド化

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
ブランド化の有無	回答数	141	30	43	26	8	3	13	18
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
有	回答数	46	15	13	8	2	0	7	1
	構成比(%)	32.6	50.0	30.2	30.8	25.0	0.0	53.8	5.6
無	回答数	95	15	30	18	6	3	6	17
	構成比(%)	67.4	50.0	69.8	69.2	75.0	100.0	46.2	94.4
出荷販売	回答数	55	20	18	7	2	0	7	1
ブランド名	回答数	25	7	6	6	2	0	3	1
出荷豚における ブランド豚の割合	回答数	38	11	12	6	2	0	6	1
	ブランド割合(%)	8.0	11.0	6.4	8.5	2.5	-	6.7	8.0
枝肉価格	回答数	11	6	4	0	0	0	1	0
	通常より割合高(%)	1.6	1.8	1.3	-	-	-	1.0	-
小売価格	回答数	6	3	2	1	0	0	0	0
	通常より割合高(%)	2.8	3.0	2.0	4.0	-	-	-	-
割合(%)		17.5	22.6	13.6	24.0	22.6	0.0	21.4	5.6
回答農場数(①～③)		162	34	46	22	12	4	14	30

- ① 飼料用米使用による豚肉のブランド化についてみると、ブランド化している割合は 32.6 %となっている。
- ② 25 農場からブランド名をつけて出荷しているとの回答があったが、出荷豚におけるブランド豚の割合は 8 %となっており、また、枝肉価格は 1.6 割程度高く出荷、小売価格は 2.8 割程度高く販売している。

③ 記述があったブランド名、その特徴は次のとおりである。

ブランド名	特徴
小樽美米豚	肉の甘味 地元農家の米(飼料米)使用地産地消
米愛豚	
やまと豚米(まい)らぶ	肉は脂肪の色が明るく、赤身の色は薄くなる。肉質はもちもちしており、脂の香りもよく、甘みもある。
お米育ち豚	
大地の米豚	中Y、放牧、米
赤豚	
じも豚	臭味がなく脂肪に旨味がありやわらかい
秋田シルクポーク	
舞米豚	割までは価格に付加していない
平牧米育ち豚	脂身(白身)がうまい
ふくしまエゴマ豚	エゴマ種子+コシヒカリ、評価は高い。
ハーブ米豚	
むさし麦豚	
平田牧場 三元豚	品種 LDB、LwB NON-GM、PHF飼料、米配合
香原豚	旨味と心地よい甘味(取扱いスーパーのキャッチコピー)
ライス・ブレンド・ポーク	オレイン酸の量が多くなるらしい
シザワポーク 米仕上げ	飼料米を15%使った豚肉
東匠米豚	
千葉のこめ豚	
清川恵水ポーク	よい
越の光ポーク	日本一美味しい魚沼産コシヒカリを食べさせて育てた究極の豚肉
しろねポーク	
パイオニアポーク	飼料用米を配合後、肉の旨味、甘味が増した
立山米ポーク	良好
高島ポーク	脂が白くやわらかい脂
福野ユーブルポーク	良好
公社(能登豚)、JA(豚輝)	肉が柔らかくおいしい。好評
豚輝	
お米育ち豚	素材そのもののおいしさに加えて、飼料米づくりから、食卓まで生産者・流通事業者・消費者がそれぞれの思いを伝え合うおいしさ
伊勢美稲豚	あっさりした風味、脂肪
頑固おやじのぶた	肉がやわらかく、脂肪が甘い
こめ豚 みみとん	飼料用米給与というよりSPF豚による評価が高い
コープおかやま豚	
阿波ぼーく	
讃岐もち豚	臭みがなく、もちもち食感。あくが少ない。
自然豚	
讃岐もち豚	
四万十ポーク米豚	脂肪に甘みがある
あじ豚	

## 9-2 六次化への取組状況

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
六次化の有無	回答数	162	34	46	22	12	4	14	30
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
有	回答数	37	15	9	2	3	1	2	5
	構成比(%)	22.8	44.1	19.6	9.1	25.0	25.0	14.3	16.7
無	回答数	125	19	37	20	9	3	12	25
	構成比(%)	77.2	55.9	80.4	90.9	75.0	75.0	85.7	83.3

① 飼料用米の六次化の取組状況については、162 農場から回答があり、六次化への取組があるものが 37 農場、22.8%となっている。



④ 回答のあった六次化の取組状況は次のとおりである。

六次化の取組状況
庄真八六(ロース、ウインナーソーセージ、ベーコン、プレスハム、叉焼き、みそ漬)
グループ会社に食肉工場がある
つがる豚
八幡平ポークあい
牧場から流通までの厳しい品質管理が、牧場から食卓まで。安全、安心、おいしさを約束するフードチェーンシステム。生産、流通、販売の経営スタイルを確立しています。
館ヶ森アーク牧場
食肉販売、加工
ハム、ソーセージ
若干の委託(フランクフルト、みそ漬)
ハム、ソーセージ加工品、物販、外食
厚木ハム
豚レバーそぼろ(ふりかけ)
農家レストラン 塩川屋(ラーメンなど)
奥久慈ポーク(黒麹仕立)
長島養豚直売所、深谷花園店、鴻巣店
精肉からベーコン、ハム、ウインナーなどの加工販売したい。
旭市の駅で販売 旭市の米仕上豚
養老もち豚
飼料メーカーの農場のため、会社のレギュラー製品のみ使用
みそ漬、生ウインナー
つなんポーク直営店、アンテナショップつなんポーク湯沢店
直売場での販売
愛ポーク、カット肉、精肉、ハムソーセージ
夢美豚、さくらポーク、直売はスライスセット
豚肉、加工品の販売
熟成肉レシピ
豚肉販売、しゃぶしゃぶ店経営
加工、販売所、建設中
食肉販売、加工品製品販売
まるみ豚
ウインナー、ハム

## 10 飼料用米に関する情報

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
所属団体	回答数	39	8	18	2	4	1	1	5
	割合(%)	23.2	20.5	35.3	8.3	20.5	16.7	7.7	20.8
農協等農業関係団体	回答数	72	18	14	21	5	2	5	7
	割合(%)	42.9	46.2	27.5	87.5	46.2	33.3	38.5	29.2
米集荷業者	回答数	19	2	7	0	2	1	1	6
	割合(%)	11.3	5.1	13.7	0.0	5.1	16.7	7.7	25.0
地域の農業関係協議会	回答数	19.0	5.0	9.0	1.0	2.0	0.0	0.0	2.0
	割合(%)	11.3	12.8	17.6	4.2	12.8	0.0	0.0	8.3
配合飼料メーカー	回答数	57.0	17.0	18.0	5.0	6.0	0.0	2.0	9.0
	割合(%)	33.9	43.6	35.3	20.8	43.6	0.0	15.4	37.5
普及員等の行政機関	回答数	24.0	3.0	8.0	4.0	1.0	2.0	4.0	2.0
	割合(%)	14.3	7.7	15.7	16.7	7.7	33.3	30.8	8.3
その他	回答数	11	4	5	0	0	0	1	1
	割合(%)	6.5	10.3	9.8	0.0	10.3	0.0	7.7	4.2
合計	回答数	241	57	79	33	20	6	14	32
	割合(%)	143.5	146.2	154.9	137.5	146.2	100.0	107.7	133.3
回答農場数		168	39	51	24	11	6	13	24

- ① 飼料用米の供給・提供に関する情報の入手先についてみると、「農協等農業関係団体」からの入手が42.9%と最も多く、次いで「配合飼料メーカー」33.9%、「所属団体」23.2%、「普及員等の行政機関」14.3%の順となっている。
- ② 地域別にみると、「農協等農業関係団体」は北陸が87.5%、「配合飼料メーカー」は北海道・東北、東海がそれぞれ43.6%、「所属団体」は関東が35.3%と高い。

## 11 今後の方針・課題

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
①平成27年度の 利用見込量	回答数	99	23	30	16	4	3	11	12
	平均(t)	460	1,193	372	138	43	41	176	208
②当面の最大 利用見込量	回答数	73	19	17	10	7	3	8	9
	平均(t)	553	1,171	487	99	481	45	363	274
③給与頭数を	回答数	81	24	24	9	5	4	8	7
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
増やしたい	回答数	26	10	8	3	1	1	1	2
	構成比(%)	32.1	41.7	33.3	33.3	20.0	25.0	12.5	28.6
現状維持	回答数	54.0	13	16	6	4	3	7	5
	構成比(%)	66.7	54.2	66.7	66.7	80.0	75.0	87.5	71.4
減らしたい	回答数	1	1	0	0	0	0	0	0
	構成比(%)	1.2	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
④給与割合を	回答数	89	22	29	12	6	3	8	9
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
増やしたい	回答数	44	10	16	6	4	0	4	4
	構成比(%)	49.4	45.5	55.2	50.0	66.7	0.0	50.0	44.4
現状維持	回答数	45	12	13	6	2	3	4	5
	構成比(%)	50.6	54.5	44.8	50.0	33.3	100.0	50.0	55.6
減らしたい	回答数	0	0	0	0	0	0	0	0
	構成比(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
①～④の合計		回答数	342	88	100	47	22	13	37
回答農場数		266	65	83	25	13	8	29	43

① 「平成 27 年度の利用見込量」は 99 農場から回答があり、それらの平成 27 年度の平均利用見込量は 460 t となっている。「当面の最大利用量」については 73 農場から回答があり、当面の平均最大利用量は 553 t となっている。

② 今後の飼料用米の利用意向をみると、給与頭数では「給与頭数を増やしたい」32.1 %、「給与頭数を維持する」66.7 %となっており両方で 98.8 %となっている。給与割合では、「給与割合を増やしたい」49.4 %、「給与割合を維持する」50.6 %となっており「給与割合を減らしたい」はなかった。

③ 飼料用米の利用にあたっての課題（別表 1 参照）

現在の飼料用米の利用の有無に関わらず、飼料用米の利用にあたって課題があれば記入していただいた。その記述内容の主なものは、次の通りとなっている。

- ・ 価格（安価、年間を通じて価格の平準化）
- ・ 数量（数量の安定確保、年間を通しての供給、入手先の確保、飼料会社が配合してくれるなら利用）
- ・ 加工（粉砕設備、加工賃、配合の手間）
- ・ 保管（保管場所、保管費用）
- ・ 流通（コスト、地域の流通システムが未整備）
- ・ 飼養成績（栄養価がわからない、発育への影響、豚の消化率、飼料要求率の悪化、配合割合）
- ・ 肉質等（肉質への影響、肉色、バラツキ）
- ・ 環境（ふん尿量増大）
- ・ 出荷先の意向
- ・ 農家補助金（継続性の不安）

### Ⅲ エコフィード

#### 1 エコフィード利用の有無と今後の動向

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
利用の有無	回答数	864	202	261	43	62	19	74	203
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
利用あり	回答数	189	27	52	14	19	13	27	37
	構成比(%)	21.9	13.4	19.9	32.6	30.6	68.4	36.5	18.2
利用なし	回答数	675	175	209	29	43	6	47	166
	構成比(%)	78.1	86.6	80.1	67.4	69.4	31.6	63.5	81.8
今後利用の有無	回答数	692	176	215	30	46	7	48	170
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
利用を検討中	回答数	21	3	8	1	2	0	2	5
	構成比(%)	3.0	1.7	3.7	3.3	4.3	0.0	4.2	2.9
	年間平均予定量(t)	1,001	1	501	100	7,900	-	-	167
利用してみたい	回答数	58	15	22	1	4	1	6	9
	構成比(%)	8.4	8.5	10.2	3.3	8.7	14.3	12.5	5.3
利用予定なし	回答数	613	158	185	28	40	6	40	156
	構成比(%)	88.6	89.8	86.0	93.3	87.0	85.7	83.3	91.8

① エコフィードの使用状況について、「利用あり」が21.9%となっている。

これを地域別の割合をみると、近畿68.4%と最も利用が多く、中国・四国36.5%、北陸32.6%の順となっており、北海道・東北が13.4%と最も低い。

② 今後の意向をみると、「利用を検討中」が3.0%、「利用してみたい」が8.4%となっており両者合わせても11.4%と少ない。「利用を検討中」の年間平均予定数量は、1,001tとなっている。

#### 2 調達方法（複数回答）

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
リサイクル業者から購入	回答数	68	6	29	4	6	5	9	9
	割合(%)	36.8	23.1	56.9	28.6	23.1	38.5	33.3	24.3
食品事業者から入手	回答数	116	16	28	10	9	9	18	26
	割合(%)	62.7	61.5	54.9	71.4	61.5	69.2	66.7	70.3
有価で購入	回答数	69	9	23	7	8	2	11	9
	割合(%)	37.3	34.6	45.1	50.0	34.6	15.4	40.7	24.3
飼料化料金を徴収	回答数	20	1	7	1	3	0	1	7
	割合(%)	10.8	3.8	13.7	7.1	3.8	0.0	3.7	18.9
無償	回答数	41	8	7	2	1	6	8	9
	割合(%)	22.2	30.8	13.7	14.3	30.8	46.2	29.6	24.3
飼料販売業者から購入	回答数	26	2	10	1	4	2	0	7
	割合(%)	14.1	7.7	19.6	7.1	7.7	15.4	0.0	18.9
その他	回答数	11	3	5	2	0	1	0	0
	割合(%)	5.9	11.5	9.8	14.3	11.5	7.7	0.0	0.0
合計	回答数	221	27	72	17	19	17	27	42
	割合(%)	119.5	103.8	141.2	121.4	103.8	130.8	100.0	113.5
回答農場数		185	26	51	14	16	13	27	37

① エコフィードの調達方法をみると、「食品事業者から入手」が62.1%と最も多く、次いで「リサイクル業者から入手」が36.8%、「飼料販売業者から購入」が14.1%の順となっている。

② 「食品事業者から入手」の内訳をみると、「有価で購入」が37.3%となっており、「無償」が22.2%、「飼料化料金を徴収」が10.8%となっている。

③ その他は、自家農場、他農場、ゴミ処理業者、出荷業者などからの購入である。

### 3 利用しているエコフィードの主な原料（複数回答）

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
①食品製造副産物	回答数	127	16	42	10	9	6	21	23
	割合(%)	75.6	80.0	87.5	71.4	80.0	54.5	87.5	62.2
②余剰食品	回答数	68	4	23	4	9	5	7	16
	割合(%)	40.5	20.0	47.9	28.6	20.0	45.5	29.2	43.2
②調理くず	回答数	50	4	14	5	9	4	5	9
	割合(%)	29.8	20.0	29.2	35.7	20.0	36.4	20.8	24.3
②農場残さ	回答数	15	2	7	2	0	0	3	1
	割合(%)	8.9	10.0	14.6	14.3	10.0	0.0	12.5	2.7
合計	回答数	260	26	86	21	27	15	36	49
	割合(%)	154.8	130.0	179.2	150.0	130.0	136.4	150.0	132.4
回答農場数		168	20	48	14	14	11	24	37

① 利用しているエコフィードの主な原料は、「食品製造副産物」が 75.6 %と最も利用が多く、次いで「余剰食品」が 40.5 %、「調理くず」が 29.8 %となっている。

② 「食品製造副産物」、「余剰食品」、「調理くず」、「農場残さ」の原料は、別表 2 のとおりである。

### 4 エコフィードの給与形態

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
①リキッド	回答数	52	6	16	3	7	4	4	12
	割合(%)	29.9	23.1	34.8	21.4	23.1	30.8	15.4	38.7
②ドライ	回答数	68	9	14	10	7	4	14	10
	割合(%)	39.1	34.6	30.4	71.4	34.6	30.8	53.8	32.3
③エコフィードを原料に含む配合飼料	回答数	48	7	16	1	3	6	7	8
	割合(%)	27.6	26.9	34.8	7.1	26.9	46.2	26.9	25.8
②その他	回答数	16	4	2	1	1	1	3	4
	割合(%)	9.2	15.4	4.3	7.1	15.4	7.7	11.5	12.9
合計	回答数	184	26	48	15	18	15	28	34
	割合(%)	105.7	100.0	104.3	107.1	100.0	115.4	107.7	109.7
回答農場数		174	26	46	14	18	13	26	31

① エコフィードの給与形態をみると、「ドライ」が 39.1 %と最も多く、「リキッド」 29.9 %、「エコフィードを原料に含む配合飼料」 27.6 %の順となっている。

### 5 認証エコフィードの利用

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
利用の有無	回答数	171	25	45	14	16	10	27	34
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
あり	回答数	19	2	7	0	2	1	6	1
	構成比(%)	11.1	8.0	15.6	0.0	12.5	10.0	22.2	2.9
なし	回答数	152	23	38	14	14	9	21	33
	構成比(%)	88.9	92.0	84.4	100.0	87.5	90.0	77.8	97.1
利用銘柄	回答数	12	1	6	0	1	0	4	0
回答農場数		171	25	45	14	16	10	27	34

① 認証エコフィードの利用の有無をみると、「あり」は 11.1 %となっている。

② 利用銘柄は、次のとおりである。

V-mix、アルフォー、エコ B、エコ PP、エコフィードつがる、京（みやこ）1号、キララミール、ドライエコミールなど

## 6 飼養ステージごとの給与（配合）割合

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
飼養ステージ	回答数	286	38	89	21	27	18	45	48
	構成比(%)	100.0	13.3	31.1	7.3	9.4	6.3	15.7	16.8
平均給付割合	(%)	40.5	34.5	39.6	32.6	58.8	63.9	32.5	39.0
回答農場数	(場)	174	26	46	14	18	13	26	31

- ① 飼養ステージごとの給与（配合）割合についてみると 174 農場から回答があり、平均の給与割合は 40.5 %であった。近畿が 63.9 %と最も多く、中国・四国が 32.5 %と少ない。
- ② 各農場によって給与割合はまちまちであるが、大まかに飼養ステージごとに整理すると次のようになっている、  
 子豚（平均 37 %）、子豚後期（33 %）、子豚前期（50 %）、子豚離乳（46 %）、種豚（47 %）、全体（42 %）、肥育後期（42 %）、肥育前期（40 %）、肥育全期（46 %）、肥育中期（38 %）、母豚（34 %）、母豚妊娠期（45 %）、母豚哺乳期（11 %）、育成（38 %）、育成後期（60 %）、餌付け（28 %）、母豚後期（25%）、母豚分娩（20 %）

## 7 取引価格

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
原料名	回答数	125	21	38	16	11	6	10	23
	原料価格	119	19	38	14	11	6	9	22
	(円/kg)	111.2	135.7	111.8	140.0	135.7	150.0	64.3	100.0
エコフィード名称・品名	回答数	56	3	28	2	2	3	10	8
	取引価格	56	3	26	2	2	3	10	10
	(円/kg)	52.3	21.4	76.5	20.0	21.4	75.0	71.4	45.5
エコフィードを含む配合飼料	回答数	27	2	18	0	2	0	1	4
	購入価格	31	2	22	0	2	0	1	4
	(円/kg)	29.0	14.3	64.7	0.0	14.3	0.0	7.1	18.2

- ① 「エコフィードの原料価格」の平均は 111.2 円/kg、「エコフィードの名称・品名の取引価格」の平均は 52.3.0 円/kg となっている。  
 また、「エコフィードを含む配合飼料の購入価格」は平均は 29.0 円/kg となっている。
- ② これを地域別にみると、「エコフィードの原料価格の平均」は近畿が 150.0 円/kg と最も高く、中国・四国が 64.3 円と低い。  
 「エコフィードの名称・品名の取引価格」は、関東が 76.5 円/kg と最も高くなっており、北陸が 20.0 円/kg と低い。「エコフィードを含む配合飼料の購入価格」は関東が 64.7 円/kg と最も高く、中国・四国は 7.1 円/kg と低い。
- ③ 詳細は、別表 3-1、別表 3-2 を参照。

## 8 食品リサイクル法、廃棄物処理法上の許可等の状況

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
既に所得・登録している許可等	回答数	31	6	6	3	5	2	0	9
	割合(%)	66.0	85.7	66.7	75.0	83.3	50.0	0.0	69.2
取得・登録を検討している許可等	回答数	6	0	1	0	0	2	2	1
	割合(%)	12.8	0.0	11.1	0.0	0.0	50.0	50.0	7.7
取得・登録を検討したが、断念した許可等	回答数	7	1	0	1	0	0	2	3
	割合(%)	14.9	14.3	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	23.1
許可等を取得・登録する上での課題	回答数	13	0	3	3	2	1	1	3
	割合(%)	27.7	0.0	33.3	75.0	33.3	25.0	0.0	23.1
合計	回答数	57	7	10	7	7	5	5	16
	割合(%)	121.3	100.0	111.1	175.0	116.7	125.0	125.0	123.1
回答農場数		47	7	9	4	6	4	4	13

① 食品リサイクル法、廃棄物処理法の許可等の状況にみると、57 農場について回答があった。

② 回答内容は、次のとおりである。

○ すでに取得・登録している許可等	登録再生利用事業者 (6) 再生利用事業計画 (2) 一般廃棄物収集・運搬業 (8) 産業廃棄物収集・運搬業 (7) 一般廃棄物処分業 (4) 産業廃棄物処分業 (6)
○ 取得・登録を検討している許可等	登録再生利用事業者 (2) 再生利用事業計画 (1) 一般廃棄物収集・運搬業 (1) 産業廃棄物収集・運搬業 (4) 一般廃棄物処分業 (1) 産業廃棄物処分業 (1)
○ 取得・登録を検討したが、断念した許可等	一般廃棄物収集・運搬業 (3) 産業廃棄物収集・運搬業 (3) 一般廃棄物処分業 (3) 産業廃棄物処分業 (4) 再生利用指定制度 (1)
○ 許可等を取得・登録する上での課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 許可申請が難しく厳しさが加わって取得が困難</li> <li>・ 更新の際提出書類等が多く整えるまでに時間がかかる。</li> <li>・ 行政を含む、関係者との友好的な状況づくり</li> <li>・ 許可業者と組むことで、養豚農家には必要ない。</li> <li>・ "申請する際、飼料化への廃棄物活用にもかかわらず、建築物からでた廃棄物同様に扱われる。一般産業廃棄物のなかでも飼料化するものは分類して欲しい。</li> <li>・ 行政の判断が長い。産廃の許可がおりるのに時間がかかり過ぎるなど</li> <li>・ ホテルから廃棄される良質な食品残渣があるのだが、地方行政が一般廃棄物の収集、運搬の許可が取得できていないので、もったいないと感じる。など</li> </ul>

## 9-1 エコフィード利用によるブランド化

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
ブランド化の有無	回答数	148	21	32	14	14	11	23	33
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
有	回答数	42	5	9	3	5	5	10	5
	構成比(%)	28.4	23.8	28.1	21.4	35.7	45.5	43.5	15.2
無	回答数	106	16	23	11	9	6	13	28
	構成比(%)	71.6	76.2	71.9	78.6	64.3	54.5	56.5	84.8
出荷販売	回答数	95	10	18	6	9	11	23	18
ブランド名	回答数	40	4	7	3	4	5	11	6
出荷豚における ブランド豚の割合	ブランド割合(%)	6.6	5.8	5.7	10.0	8.8	-	6.2	6.3
枝肉価格	回答数	11	1	3	0	1	2	0	4
	通常より割合高 (%)	2.2	1.0	2.3	-	-	-	-	-
小売価格	回答数	7	1	1	0	1	1	1	2
	通常より割合高 (%)	2.3	1.0	2.0	-	-	-	-	-

- ① エコフィード利用による豚肉のブランド化についてみると、「ブランド化有」は **28.4%** となっている。
- ② **40** 農場からブランド名をつけて出荷しているとの回答があったが、出荷豚におけるブランド豚の割合の **6.6%** となっており、また、枝肉価格は **2.2** 割程度高く出荷、小売価格は **2.3** 割程度高く販売している。
- ③ 記述があったブランド名、その特徴は次のとおりである。

ブランド名	特徴
北海道ホエイ豚、花畑ホエイ豚	やわらか、甘い
北海道はまなかほえいとん	あっさりしていて脂が甘い
エコフィード つがる	米を30～60%使うことで、オレイン酸が多く含まれているためほどよい柔らかさになっている。
笑子豚	食品メーカーから仕入れた食品ロス(主にホエイ、麺類、焼酎粕、パン、稲庭うどん)を原料に、PH4.5以下という厳しい出荷基準をクリアした厳しい出荷基準をクリアしたエコフィード(リキッド飼料)を給与した高級豚にひけをとらない美しい豚です。
奥久慈ポーク	やわらかさ、味、歯触りの良さ等の特質がある
むさし麦豚	
かとちくポーク	自家配合であるので旨味が違う
うまか豚(旨香豚)	
	中ヨーク種一ダイヤモンドポーク
恋する豚	消費者評価(うまい)、流通業者からリピート
緑茶豚	
柔豚	柔らかく、臭みがなく、評価は口コミで拡大中
つなんポーク	
しるねポーク	
豚輝	
豊川エコポーク	やわらかい、脂が美味しい
三河もち豚	
三州豚	脂身が真っ白でコクがある
忍茶豚	
なにわポーク	エコフィード給与による飼育期間の延長
犬鳴豚	肉色が薄く、サシが入り、旨みのあるおいしい豚肉
神戸ポークプレミアム	オレイン酸が多い。融点が低い。
ひょうご雪姫ポーク	
雪姫ポーク	オレイン酸が多い。肉が柔らかく、脂が甘い。融点が低い。
いかり黒豚	
岡山いつつぼし豚	
三元豚珍甘	甘み良好
西農ポーク、SAINOOポークZ	油かすを与え放牧を行う。脂肪から酒粕の風味がする。
むつみ豚	甘く、さしが入る。
阿波ポーク	
社づた	冷めても脂がさらっとしている。野菜味のある香りと歯ごたえ。完全放牧。
オリーブ豚、オリーブ夢豚	旨味・甘味成分が向上し、フルーティな甘味が特徴の果糖(フルクトース)が高い(約通常飼料の1.5倍)
味豊豚	良好
オリーブ豚	旨味・甘味成分が向上し、フルーティな甘味が特徴の果糖(フルクトース)が高い(約通常飼料の1.5倍)
四万十ポーク	
名前なし	
南の島豚	甘い
あじ豚	
焼酎粕豚	
渡辺パーク	鹿児島 渡辺パークシャヤー
くいまる豚	



## 9-2 六次化への取組状況

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
六次化の有無	回答数	68	6	17	5	4	9	12	15
	割合(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
有	回答数	17	1	4	1	1	2	6	2
	割合(%)	25.0	16.7	23.5	20.0	25.0	22.2	50.0	13.3
無	回答数	51	5	13	4	3	7	6	13
	割合(%)	75.0	83.3	76.5	80.0	75.0	77.8	50.0	86.7

- ① エコフィードの六次化の取組状況については、68 農場から回答があり、六次化への取組があるものが 17 農場、25.0 %となっている。
- ② 記載があった六次化の取組状況は次のとおりである。

長島養豚直売所、深谷花園店、鴻巣店
加工ハム、ソーセージ、ベーコン、ウインナー等
加工品(ハム、ソーセージ)、精肉、レストラン
直売所への販売
ハム、ソーセージ加工
熟成肉レシピ
犬鳴豚、コロッケ、餃子、ハンバーグ
SAINOポークZ
豚肉
ハム加工品等の製造販売
米豚 しゃぶしゃぶ 焼き豚 コロッケ
ハム加工等の製造販売
建設中(加工、販売)
精肉販売
ハム、ウインナー

## 10 エコフィード利用畜産物認証の利用

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄	
エコフィード利用畜産物の利用の有無	回答数	148	20	35	13	16	10	25	29	
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	あり	回答数	8	1	4	0	0	0	1	2
		構成比(%)	5.4	5.0	11.4	0.0	0.0	0.0	4.0	6.9
なし	回答数	140	19	31	13	16	10	24	27	
	構成比(%)	94.6	95.0	88.6	100.0	100.0	100.0	96.0	93.1	
今後のエコフィード利用畜産物認証制度の利用見込み	回答数	126	19	31	11	14	9	18	24	
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	あり	回答数	2	0	1	0	0	0	1	0
		構成比(%)	1.6	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0
なし	回答数	124	19	30	11	14	9	17	24	
	構成比(%)	98.4	100.0	96.8	100.0	100.0	100.0	94.4	100.0	

- ① エコフィード利用畜産物の利用の有無についてみると、「あり」は 8 農場で関東が 4 農場で最も多い。
- ② 今後のエコフィード利用畜産物認証制度の利用見込みについてみると、「あり」は 2 農場のみであった。

## 11 今後の方針・課題

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
①平成27年度の 利用見込量	回答数	108	15	33	10	6	6	18	20
	平均(t)	1,486	1,120	2,128	592	2,933	731	232	2,069
②当面の最大利 用見込額	回答数	85	12	28	8	2	4	16	15
	平均(t)	1,422	1,234	1,846	713	4,040	954	287	2,145
③給与頭数を	回答数	112	16	28	9	7	9	20	23
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
増やしたい	回答数	32	6	6	4	1	2	7	6
	構成比(%)	28.6	37.5	21.4	44.4	14.3	22.2	35.0	26.1
現状維持	回答数	75.0	9	21	5	6	6	13	15
	構成比(%)	67.0	56.3	75.0	55.6	85.7	66.7	65.0	65.2
減らしたい	回答数	5	1	1	0	0	1	0	2
	構成比(%)	4.5	6.3	3.6	0.0	0.0	11.1	0.0	8.7
④給与割合を	回答数	101	15	23	9	6	9	17	22
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
増やしたい	回答数	34	8	7	4	2	3	4	6
	構成比(%)	33.7	53.3	30.4	44.4	33.3	33.3	23.5	27.3
現状維持	回答数	64	6	16	5	4	6	13	14
	構成比(%)	63.4	40.0	69.6	55.6	66.7	66.7	76.5	63.6
減らしたい	回答数	3	1	0	0	0	0	0	2
	構成比(%)	3	7	0	0	0	0	0	9
①～④の合計	回答数	535	95	155	45	25	31	88	96
回答農場数		233	49	72	19	12	11	31	39

① 「平成27年度の利用見込量」は108農場から回答があり、それらの平成27年度の平均利用見込量は1,486 tとなっている。「当面の最大利用量」については85農場から回答があり、当面の平均最大利用量の平均は1,422 tとなっている。

② 今後の飼料用米の利用意向をみると、給与頭数では「給与頭数を増やしたい」28.6%、「給与頭数を維持する」67.0%となっており両方で95.6%となっている。給与割合では、「給与割合を増やしたい」33.7%、「給与割合を維持する」63.4%となっており両方で97.1%となっている。

③ エコフィードの利用にあたっての課題（別表4）

現在のエコフィードの利用の有無に関わらず、エコフィードの利用にあたって課題があれば記入していただいた。その記述内容の主なものは、次の通りとなっている。

- ・ 価格（安価、年間を通じて価格の平準化）
- ・ 数量（数量の安定確保、原料の定期的な調達、入手先の確保、飼料会社が配合してくれるなら利用）
- ・ ブレンドする施設、給餌ラインの設備費用
- ・ 処理に手間、労力がかかる、ノウハウがない
- ・ 保管（保管場所、保管費用）
- ・ 輸送コスト
- ・ 飼育成績（栄養価がわからない、発育への影響、飼料要求率の悪化、配合割合）
- ・ 肉質等（肉質への影響、肉色、バラツキ）

- ・環境（衛生、病原性の対策、ふん尿量増大）
- ・出荷先の意向
- ・情報
- ・エコ認証を受けてもメリットがない
- ・繁殖、あるいはブランド豚であるため使用しない。

#### IV その他の国内由来飼料

区分		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
その他国内由来飼料	回答数	42	9	19	4	2	2	0	6
	割合(%)	150.0	128.6	190.0	100.0	200.0	200.0	0.0	120.0
年間使用量	(t)	102.5	73.1	102.5	152.8	300.0	40.0	0.0	67.8
回答農場数	(場)	28	7	10	4	1	1	0	5

① その他の国内由来飼料についてみると、28 農場 42 件の回答がありその平均年間使用量は 102.5t であった。

② 詳細は、次のとおりである。

種類	年間使用量(t)	特記事項	種類	年間使用量(t)	特記事項
くず小麦	6	粉碎	乾麺、パスタくず		自家配飼料に混合
デンプン	3		小麦	4	
小麦	120		とうもろこし	100	
デントコーン	3	サイレージ	乾燥野菜	20	コストパフォーマンス
小麦(規格外)	30		大麦(規格外)	30	
菓子パンくず		自家配飼料に混合	豆皮		自家配飼料に混合
米ぬか	150	安定している	せんべい	50	安定しない
大豆油搾り粕	770		大豆くず	160	
米由来のバイオエタノール残渣	600	液体、平成27年8月以降中止	乾燥野菜		
炊飯米	500		牛乳	100	
小麦粉	40	日清神戸工場より、10t/2~3ヶ月	チーズ	40	
小麦粉	360		そば粉		
さつまいも、つる	2	出荷できないイモなど	小麦糠	104	
魚・ねり製品	500		大麦糠	50	
ジャム	20		卵類	2600	

別表1 飼料用米の利用にあたっての課題

課題
飼料メーカーが配合してあるもので価格が安ければ利用しても良い。肉質を良くする配合割合は専門家にまかせる。
倉庫使用料負担増大 倉庫使用料の補填必要
いろいろな情報を得たい。
北海道は、飼料米の使用が少なく、JA組織も余り興味がないようです。また、生産者も飼料米を作付けすることは抵抗があるようです
育成速度及び当社環境におけるマッチング
農協に取り組む意志がない
飼料メーカーによるものでなければ給餌上使用できない
量的に、普及のレベルに達していない。情報が少ないため、判断できない。
コストが減るなら利用したい。
入手、貯留等の設備投資の不安
現場での利用、配合は設備、人手の関係もあり、また、一部で差別化販売があり、飼料トレースがある。
コスト、量が多いのでシステムの的に工場で配合してくれれば使える。
高コストになるのではないか。
近場で入手しやすいルートがない。定時、定量の入手が難しい。
配合飼料における使用状況を確認する必要がある。
価格が安ければ使いたい。
配合飼料メーカーが製品として販売する場合使用する可能性あり
豚肉販売先からの要請があれば給与することに特段困難はない。(労力としてはただの配合原料としての位置づけ…コストは負担していただく。)
飼料メーカーや販売経路をもっている所と提携を考えている。
・生産量の確保 ・価格
価格、保管場所
自己調達での使用は難しい。
供給量の安定化
配合飼料メーカーとの調整したい
必要な量を確保できない
買取価格
飼料工場が対応可能かどうか。
保管場所、単価
親会社が配合飼料メーカー
保管と加工
ストック場所の確保、加工技術等
配合割合と要求率のバランス
飼料米を使用できる環境にいまのところない。
年間を通して利用できる方法を見つけたい
飼料用のストック場所がないため
1年間使用にあたっての飼料米の保管体制をどうするのか？
飼料米のストック場所等がないため
配合飼料メーカーの関連農場のため、農場までのコストや流通など
飼料メーカーが配合飼料に飼料米を配合して販売するのであれば使用したい
飼料メーカーが飼料米入りの配合を販売すれば購入を考えたい
保管場所がない。乾燥する場所が食料米と同じなため、刈り取り時期をずらさなければいけないので、品質、収量に影響がでる可能性がある。
玄米の粉碎に時間と手間がかかる。
価格、肉色の変化
低価格の維持を補助金を使わずに実現すること。
貯蔵と加工が課題。価格はトウモロコシより安ければならない。
肉質次第
保管場所、攪拌施設
肉質
飼料用米は安定供給が出来ていない。普通の米では、要求率が悪くなる。
粒子がそろにくい。
厚脂になりやすい。
価格
配合飼料メーカーにどんどん供給してもらいたい。配合割合を増やしてもらいたい。
数量の安定性

課題
配合飼料を使用しているのでメーカーに希望を伝えたい。
緑の保全のためにも飼料自給率向上のためにも飼料米の利用は必要と考えるが、一生産者が利用を望んでも無理。当場の場合、単味の利用は出来ないのでは、工場で完配となったものを使いたい。
飼料米の入手方法や配合割合等の考え方をどのようにしていくのかわからない。
出荷先の好みの問題
飼料米の保管場所がない。粉碎機が高額。
現状 利用しやすい環境に至っていない。
コスト、手間
肉質が悪くなる。脂質が落ちる。
保管方法とコスト、質のばらつき
JAが飼料米配合飼料を供給している
ステージごとの配合割合がわからない。
保管庫
保管、粉碎、値段
倉庫の問題と飼料米だけとしばりがあると、他の米が使いづらい。
1年分の保管が難しい。
飼料価格 肥育豚の肉質等への影響
取引上の条件のため、指定配合飼料を利用している。
消化吸収を高めるための加工(加熱勝利など)が必要
流通の問題(飼料メーカーから米農家への流通)
設備をどう整えるのか
エコフィード、パン、菓子粉等との価格差、使いやすさに劣る。
メーカーで配合してもらったのが利用しやすい
保管場所、品質保持(自分で保管した場所)
設備の調達
自家配ならば使えるが完配とのコストより安くはないと使う意味がない。単味の飼料米とした場合単価/Kgは？、粉碎してあるのか
安価な飼料米保険倉庫の確保
価格が安価で調達できれば使用したい
配合飼料に入っている米の分だけで自分では使用しない。
保管と移動
地域内での流通システムが未整備、保管時のねずみの対策。
配合飼料にすでに15~30%配合されているので、自家利用をどこまでいられるか。
粉碎されたものでないと使えない
粉碎方法
ふんの量が多くなる
飼料米を使用するメリットが多ければ 使うと思う(肉質が良くなる。価格が安い等)
配合飼料にプラスする飼料のためのグレードの飼料を求める。
価格、保管、加工、運搬
①粉碎設備の問題、②栄養設計の問題、③配合飼料の形状がペレットであること
廃米を利用しているため
消化不良の心配
具体的な利用方法はない
配合をどのようにおこなうのかわからない。
メーカーが飼料米を扱っていない。
飼料米の栄養がまったくわからない
保管場所の確保・保管費用・運賃、トランスバック処理費
取組相手
単価が高いのが課題
年間を通して供給できること。価格の平準化と安価であること。
もっと詳しい情報を知りたい。
生徒のプロジェクト活動に活かしたい。
農家補助金の継続性
実験的に飼養しているため、飼料用米を使う見込みはない。
高い。20円/kgでなければ、メリットがない。
今後設備投資をしてまでの元気も体力もない
耕種農家の飼料用米作付は補助金があることが大きく影響していると思われる。今後の作付けも補助金次第であり、使用については不安な面もある。

課題
値段が高い
販売上必要なら使用する。
価格面でもっと低価格にならないか
付加価値
価格
粉碎・配合に手間がかかる
価格(運送、保管含む)
残留農薬などの安全性(そのため、食用のくず米を利用)
価格が安ければ利用したい
保存が課題
保管場所の確保・配合飼料の混入の手間
価格、豚の消化率
無駄な取組としか思えない。
コスト
試験区の設定が難しい。
ブランド豚を作る上で、餌が限定されている。
保管
米の配合割合で肉質がどうであるか確立できていないのではないかと思います。
調達方法がわからない。
コストと労力の問題。飼料米の確保が難しい。
調達方法がわからない。
手間がいるので食べさせない。
高い
自家配合施設に投資するつもりはない。
米を加工しなければいけないこと。
自家配の設備を導入しなければいけない。
飼料米の保管など
飼料メーカーで配合してくれれば利用したい。
配合飼料メーカーからの購入飼料で飼料用米を利用するかもしれない
1年間継続して使用する場合、保管方法が課題。特に夏場の保管。
飼料屋が、配合飼料に飼料米を入れて、安くなるのであれば入れてほしいと思っている
認知不足
地域的に早期水稲であり、乾燥や貯蔵に経費がかかり、価格面で不利
農協系統の飼料を使用しているが、全農、経済連等で飼料米が配合されれば使用したい。
粳すり機のメンテナンス
価格及び効果
コストと発育の問題
飼料会社が飼料米を使いやすい様にして欲しい。
1時期業者からの声かけがあり使用したが、業者の都合で入手が出来なくなった(くず米)。
飼料米の事がよくわからない。
コスト、機械利用
当地域では、安定的な入手が困難
高いからコスト高になる、30円/kg以下だったら使う
単価が分からない。調達方法が分からない。情報が無い。
わからない
現状のコストでは使えない
近くで飼料用米が生産されていない
飼料メーカー

別表2 利用しているエコフィードの主な原料の種類

馬鈴薯 食品製造副産物	余剰食品	調理くず	農場残さ
ポテトチップ、おから、ビールかす		コロッケ半製品、チョコレート、クッキー、おから	
小麦粉、小麦ねり物	豆腐 カルビー、じゃがりこ		
カボチャ、長いも、リンゴ粕、ビール粕、醤油粕			
小麦粉、菓子くず、ホエー			
ホエイ			
大豆粕	パン、麺類、菓子		黒豆、カボチャ、イモ
ラーメン・うどん・そば		コンビニ(パン・おにぎり)	長いも
もなかかす、ワシタンかす			
クッキー、うどん、ラーメン、そば、せんべい、酒粕			
パン、麺類、ナッツ類、菓子、チョコ			
パンくず			
パン屑、酒粕			
菓子くず、ラーメンくず			
アイスクリーム・コムコンくず			
	ピーナッツ、アーモンド、カシューナッツ	パン粉、乾麺	
		病院食	
豆腐粕			
パン、かし粉、ラーメン等	粉ミルク等		
じゃがいも、さつまいも、胡椒、米粉製造残渣、焼酎粕、ホエー	油脂		さつまいも
菓子パン粉			
	小麦粉、豆		
菓子くず			
菓子粉、干いも残渣	生地、せんべい		
	パン、ホットケーキ、バウムクーヘン、うどん、ラーメン、パスタ		
	パスタ粉、菓子粉		
	期限切れ冷凍品(野菜、パン生地)、チーズ、酒粕		
菓子くず、パンロス品		米飯残り、野菜	牧草、野草、カボチャ
ホエー			

食品製造副産物	余剰食品	調理くず	農場残さ
タピオカでんぷん、コーンスターチ、きなこ	パン		
ホエー、パン、ラーメン、米飯、小麦粉			
菓子、ラーメン、パン		煮豆	
パン、ラーメン食品残さ			
パン(食品残さ給食センター)			
パン工場にて余剰製品	パン屑		
菓子くず、大豆くず、マグロくず			
おから、シロップ、焼酎粕、ビール粕、卵殻	混合残さ(ベーダー系、スープレ系、給食系)、パン屑、菓子屑、飯屑、その他		
不産豚情報が多いため、利用しない。			
パン粉、菓子粉			
CSL	パン、卵、弁当	野菜くず	なし
CSL	パン、卵、弁当	野菜くず	なし
CSL	パン、卵、弁当	野菜くず	なし
食パンの耳、麺のくず	ごはん残さ、弁当残さ、パンの残さ		
ノーケンマーケッティング			
パンくず、小麦粉、菓子粉			
米糖、フスマ、グルテンフィード、おから	パン、菓子、せんべい、小豆粉、木粉、カレー粉、グラタン、うどん、ラーメン	肉、野菜、卵、食パン、ご飯、魚類	
おから、カツオダシの残り、らっかせい粕	カップラーメン、パン用ミックス粉	ギョウザ、野菜屑等	
米、パン、麺、肉、菓子	惣菜	冷食、乳製品	
ミルク、ココア			
パン粉、小麦粉、こめ粕		学校給食残菜	
くずパン			
パン、病院残さい			
スパゲッティ、米	パン、ラーメン、菓子		
パン、菓子			
		残飯、残菜	
食パンの耳(パン粉製造業者より)	主食用パン		
CSL	パン、卵、弁当	野菜くず	なし
CSL	パン、卵、弁当	野菜くず	なし
パンの耳			
米、パン、牛乳			
米菓			
パンくず、米菓くず			
菓子くず(せんべい等)	学校給食残渣		くず大豆 野菜くず



食品製造副産物	余剰食品	調理くず	農場残さ
菓子くず	菓子くず		
菓子くず	菓子くず		
		うどんくず	
バームクーヘン、アイスクリーム液、中華まん生地	パン		
バームクーヘン			
バームクーヘン、菓子くず、廃棄小麦粉ほか	パスタ		
お菓子くず、パン耳			
大豆皮		パンの耳	
		菓子、ラーメン	
		パンくず、きな粉くず	
チーズ、パンくず			
パン粉			
パン、菓子パン、乾麺、菓子類			
ラーメン、うどん、そば	市場での売れ残り余剰野菜	野菜、病院残飯	
米粉	ヨーグルト、牛乳		
麺類、魚系練り物、大豆ホエー、おから、酵母抽出液、カスタードクリーム	ドーナッツ、米、ジュース類、冷凍食品	ジュースしぼり粕	
パン粉	うどん、ごはん	野菜(芋ピール、カット野菜)	
ポテトピール、小麦粉、ミックスマスター、大豆タンパク	冷食残さ、ウズラ卵、うどん	餃子皮	
		会社社員の残飯	
小麦、米粉	バームクーヘン		
パン生地	小麦		
		米	
		小麦粉	
	米飯、パン、そば		
	乾麺、ゆで麺、パン、ビスケット		
菓子原料		残飯	
パン、肉まん、うどん等麺類	パン、プリン、ゼリー	カット野菜くず	
小麦粉、デンプン、菓子	麺、パン、ごはん、牛乳、惣菜	パン粉	
菓子くず			
		給食残渣	
パン、菓子パン、乾麺、菓子類	残飯		
パン、米飯、食パンのヘタ・生地・小麦粉、うどん	パン類	残飯	
	パン、うどん、パスタ	残飯	
ケーキくず			
パン粉、菓子粉			
パン粉生地			

食品製造副産物	余剰食品	調理くず	農場残さ
	パン、麺類主体の加工したエコファイ ード		
	小麦粉、フスマ、菓子粉、チーズ、パ ン粉(パン)、ノンフライラーメン、ジャ ム	牛乳、ホエー、ヨーグルト	
パン粉、菓子粉、小麦粉			
パンくず、玉子焼き、ごま粕			
パン粉			
米粕、米ぬか、酒ぬか	パン		
インスタントラーメン等の乾麺	シロップ	洋菓子、ワッフル、カステラ	
パン	ごはん		
酒粕			
給食、パン、弁当			
パン屑			
パン屑、ビスケット屑、ソーメン屑、ラーメン屑、粉乳屑	うどんの半乾燥麺		
		製菓会社の健康補助食品(大豆が 主原料)	
おから、米ぬか	豆腐	残飯	野菜くず、くず米
とろふ粕、くず米	賞味期限切れ食品	黒豆くず	野菜くず
食パン屑			
パン粉	うどん	野菜くず	
無菌米飯、うどん、お好み焼き、チャーハン、チーズ、チョコレー ト、そば			
コロツケの残渣			
パン粉、オリーブ			
乾麺			
ワインオリ粕			
食パン屑			
パン屑			
パン、菓子くず、米ぬか、CSL			ブドウ、ミカン、イモ等
パン残さ等		食事の食べ残し	
焼酎粕、シロップ粕、精糖蜜	ビスケットミックス		

食品製造副産物	余剰食品	調理くず	農場残さ
パン生地、パン耳	麺や米飯の残渣		
パン、菓子粉		ごはん、食パンの耳	
生の焼酎かす			
焼酎粕			
里芋、葉物野菜	オカラ	甘藷	
焼酎かす			
弁当、お菓子			
コウジ			
カリン糖などの菓子			
冷凍餃子、冷凍ハンバーグ、生麺、パン屑、ヨーグルト			
菓子、パン粉			
焼酎粕、野菜くず	麺類残飯	パンくず	
焼酎粕			
おから		レストランくず	
パン屑、焼酎芋屑	惣菜屋の食品残差		
		油、天かす	
焼酎粕、パン屑ほか			
焼酎粕	パンくず		
	パン		
	パン		
	パン粉、菓子粉、小麦粉		
	パンくず、そば粉、小麦粉、アーム		
	油、甘藷かす		
食事の残り物		野菜くず	
	パンくず		
食パンの耳	学校給食		
	給食	野菜、きのこ、昆布、その他	ごはん、麺、その他
	学校給食センターの食品残渣		
米、オカラ、もろみ粕、パンの耳	炊飯米、おにぎり、惣菜		
おから	給食センター 残渣	野菜(葉もの)、惣菜	

別表3-1 取引価格(平成27年8月1日現在)

原料名①	①の買取 価格(円/k g)	原料名②	①の買取 価格(円/k g)	原料名③	①の買取 価格(円/ kg)	原料名④	④の飼料化 料金徴収価 格(円/Kg)	原料名⑤	⑤の飼料化 料金徴収価 格(円/Kg)	原料名⑥	⑥の飼料化 料金徴収価 格(円/Kg)
パン粉	31	規格外小麦	24	飼料用米	20						
カルビー、じゃがりこ	2										
長いも	1	カボチャ	1	ビール粕	20						
小麦粉	35	菓子くず	15	ホエー	0						
ホエイ	5										
コロッケ	2	長いも	25	お菓子	20						
もなかかす	0	ワナンタン粕	3								
食パン耳	8	菓子パン生地	3								
パン屑	3	酒粕	1								
ソフトクリームコーン	10										
ラーメン	30	カレー粉	26	ミルク類	48						
さつまいも現物	4	ホエー現物	1	米粉製造残渣	20						
菓子粉	25	干いも残渣	10								
ホエー	2					菓子くず	10	パン	17	米飯	5
ホエー	1	米飯	5	¥		京(みやこ)1号					
菓子、ラーメン	10			小麦粉	3						
パン屑	1										
パン	3	パスタ	10	菓子	2						
パン	3	パスタ	10	菓子	2				55		
パン	3	パスタ	10	菓子	2				55		
									55		
食パン耳	10	フスマ	28	グルテン	27						
くずパン	2										三洋エコ

原料名①	①の買取 価格(円/k g)	原料名②	①の買取 価格(円/k g)	原料名③	①の買取 価格(円/ kg)	原料名④	④の飼料化 料金徴収価 格(円/Kg)	原料名⑤	⑤の飼料化 料金徴収価 格(円/Kg)	原料名⑥	⑥の飼料化 料金徴収価 格(円/Kg)
病院残飯	20										
パスタ	28										
パン	15										
食パン等	10	食パンの耳	14								
パン	3	パスタ	10	洋生菓子	2	2	55				
パン	3	パスタ	10	洋生菓子	2	2	55				
パンくず	5	米菓くず						エコフィード	5		
菓子くず	20	大豆くず									
菓子くず	30	菓子生地	32								
うどんくず	10										
バームクーヘン	22	パン	22	中華まん生地	6	6	3	アイスクリーム液	29		
バームクーヘン	23	パスタ	29								
バームクーヘン	22	パン	22	パスタ	26	26					
パンの耳	15										
小麦粉	20	ジュース類	0.5	パン類	14	14					
小麦粉	25	大豆タンパク	36								
焼きそばめん	15										
タンパク	35	菓子	5								
パン	13	肉まん	3					残飯	10		
豚肉仕上げ	36										
パン	32										
ラーメン	20	パン粉	22	小麦粉	12	12					
パン粉	32	菓子粉	45								
パン	20										
酒粕	200							ごはん	4	パン	0





エコフィードの名 称・品名⑦	⑦の取引 価格(円 /kg)	エコフィードの名 称・品名⑧	⑧の取引 価格(円 /kg)	エコフィードの 名称・品名⑨	⑨の取引 価格(円 /kg)	エコフィードを 含む配合飼料⑩	⑩の取引 価格(円/kg)	エコフィードを 含む配合飼料⑪	⑪の取引 価格(円/kg)	エコフィードを 含む配合飼料⑫	⑫の取引 価格(円/kg)
エコフィード	5										
エコフィード	4										
菓子粉	23	離乳用ミルク	150	脱脂粉乳	50						
前期・後期スープ	3					ベースミックスHJ	83	ママ8ゴールドリッ	59	ママ7マスター前	162
前期・後期スープ	3					ベースミックスHJ	83	ママ8ゴールドリッ	59	ママ7マスター前	162
せんべいくず	30										
菓子粉	2.5										
パンくず	5	チーズ	1								
子豚B	45	肉豚C	40								
ヨーグルトミックス	30										
						エコフィード(リキ)	7	配合	50		
ドライエコミール	19										
ハイパーキッド	1										
パン粉、菓子粉	8										
パン粉A社	22	パン粉B社	10								
パン粉	28										



エコフィードの名 称・品名⑦	⑦の取引 価格(円 /kg)	エコフィードの名 称・品名⑧	⑧の取引 価格(円 /kg)	エコフィードの 名称・品名⑨	⑨の取引 価格(円 /kg)	エコフィードを 含む配合飼料⑩	⑩の取引 価格(円/kg)	エコフィードを 含む配合飼料⑪	⑪の取引 価格(円/kg)	エコフィードを 含む配合飼料⑫	⑫の取引 価格(円/kg)
乾麺	30										
キララミール	30										
パン屑	1										
パン粉	38	ビスケット	22	ラーメン屑	20						
くず米	40	おから	20			プレミックス	250				
エコ	27										
ビスケットミックス	70										
焼酎粕ドライ	30.5										
コウジ飼料	35					尾鈴混合F3 混合3	40 30				
						HZリキッド	38				
リキッド、スーブ	7	子豚フリー、HML	45								
パンくず	25										
パン	2										
						仕上げ	55				
給食センター残渣	0										

別表4 エコフィードの利用にあたっての課題

課	題
	いろいろな情報を得たい。
	施設改善する費用、貯蔵する施設等の費用負担がかかるので旧施設の農場では凍結もあり問題がある。
	給与方法における設備投資
	田舎にいるため入手困難
	効率的な水分除去方法を開発しなければならない(水分除去して保存性をたもつ必要がある。)
	輸送コスト
	衛生面
	安定的に入手できない。えさ箱、ラインの設備を新しく改造しなければならない(資金調達)。
	酪農地域なので、デントコーン主体のTMRがあるので、デントコーンのサイレージ等を給餌できれば、とてもy使いやすい、理にかなっているが、デントコーンやサイレージ給与のデータがなく情報が欲しい。
	パイプロ調達、スープ工場の運営は自前では、コストや技術的にハイリスク。J.F.Eのような中間処理業者があれば胃袋はある。運賃が主たるコストなので地方にあればよい。
	現場での利用、配合は設備、人手の関係もあり、また、一部で差別化販売があり、飼料トレースがある。
	利便性
	・身近に適当なものがない。・エコフィードの品質に対して不安がある。・生産した場合、生産物に対して不安がある。
	ノウハウがない
	購入先が不明、形体、形状も不明。市販の配合飼料に、低価格のエコフィードを購入、混合し飼料コストの低減を図れ
	パイプロ、エコフィードは保存方法・流通に課題が多い。当社は特定の供給先と産直取引(ブランド豚)なため、供給先とエサの配合割合についてはコンセプトの合う飼料のみ給与することになる。当面利用する環境にはない。
	ブレンドする施設や給餌ラインの増設が必要でありコストが嵩む。
	エコフィードの品質と生産豚の品質に与える影響への不安
	・数量確保の問題 ・エコフィードの品質に対する不安 歩津生産豚の品質に対する不安
	安定入荷ができるか課題
	病原性の対応策を講じた状態での使用はありうる。
	必要な量を確保出来る環境にない。
	設備投資がない。食物残さがない。
	肉の販売戦略上、理解が得られない。
	質・量の安定
	初期投資 継続的な原料の量と価格での調達 ノウハウ 人材
	調達先
	内容物が一定でない。水分が高い。
	配合割合と要求率のバランス
	安定的取得が困難である
	使用してみたいとは思うが、いまのところあてがない。
	本社は飼料メーカーであるため、100%子会社は本社スライド全量配合、現在使用の配合飼料も米等の配合されている
	食べさせる手間と時間
	エコフィードの給与の方法
	原料と輸送コスト、浄化槽付加
	原料を一定量コンスタントに確保が難しい。親会社との兼ね合い。
	TPPにより相場が落ち込み配合飼料のみでは無理が来たときには考えたい。新たな設備が必要で初期投資が大きい
	肉質、設備
	品質の安定化と絶対量の確保
	今後の方針の①②はともに水分15%に換算した重量です。
	給餌施設、保存性、糞尿の増加
	肉質、設備
	半ねり状態なので、給与に手間がかかる。
	めんどくさい
	安定した質、量が集らないため設備資金が負担になる。
	エコフィード認証制度をとることで消費者が価値ある豚肉だという認識になるか疑問を感じる。
	品質の安定性
	原料の安定化。水分を少なくする方法。飼育方法の研究。品種の選定。食品工場との密なる連携体制。
	飼料自給率を向上させるためにも、エコフィードの利用は必要と思えるが、未利用資源となる副産物の入手が困難となるなど背景と、利用する側の地理的条件や、施設等の問題がある。
	飼料米は今後使っていきたいと思っている。量や生産者など未定なので一つ一つきめていく。生産者次第で条件が変わるので利用は時間がかかると思う。今のところ業者購入は考えていない。地元であればなおより良しと思っている。
	かえってコストがあがるような気がする
	肉質の問題、ブランド豚の定義に反している。
	肉質(アミノ酸・脂肪酸組成)の斉一性を維持できるか疑問
	配合飼料に入っているのは知っているが詳しくは聞いていない。

課	題
	肉は食べてみるとおいしいのだが、しまりが悪いという難点があり扱いづらいということで利用が増えていかない。
	安定して使用することが困難(原料入手など)
	発育、肉質、手間、コスト
	肉質、トレーサビリティ、初期コスト
	配合飼料に比べ、栄養バランスが悪い・供与がやりづらい・肉質が悪い。
	調達方法、ドライ加工
	肉の味の問題と、消費者の中でエコフィードへの理解がまだ進んでいないところがある。これからも海外との肉の差別化をする上で、肉質が高くなければいけないと考える。
	繁殖なので
	繁殖なので
	肉質の問題の解決が急務
	成分の安定性、配合飼料との混合に手間
	施設の整備、そして規模の問題、費用対効果が取組に大きく関係してくるものと思われる。総じて大規模経営ほど有利(メリットが出やすいもの)と思われる。小さな経営者は、エコフィード原料(調整品)を配合飼料に混合して使用する方
	栄養設計と安全性、枝肉のバラツキの問題など
	給餌方式など、不明な点が多い。
	飼料として安定した製品にするための予算及び行政支援(まだまだ廃棄される量の方が多い)
	・リキッドの場合は給与方法がドライ給餌と異なるので設備が別。自家配であればドライ飼料も使えるが、出来た自家配飼料のコストと飼料としての質のレベルが重要である。十分検討の要あり。
	設備、労働力、肉質等総合的に判断すると利用の予定はない
	ブランド豚で飼料が決まっている
	繁殖のため
	GPなので
	各エコフィードの嗜好性が不明(味付けのないせんべいは、当センターでは豚食べず)、生大豆は、アミノ酸分解阻害
	エコフィードを利用すると肉の味が落ちるようで、国内豚肉生産者として利用に対してためらう。
	肉質の管理(維持)が難しい。
	原料の定期的な調達
	肉質の管理(維持)が難しい。
	飼料米と同様に使うことによってメリットが多くあれば使う方向にいくと思う。
	配合内容・成分表等が明確でなく、配合飼料会社相当の信用がない。提供された成分表では、TDN・CPともに不足で
	与えてはいけないものがあると少しずつわかってきた(香辛料(肉へのニオイ移り)、アルコール(酔っ払った)。タンパク
	時期によって出る量の波がある
	供給が不安定
	原料の均一化
	ブランド豚として生産しているため飼料プログラムが決まっている
	TPPの影響を受け、豚価が下がることは大きな損害をもたらすので、飼料価格を下げるためにも、飼料価格を下げる
	ためにも飼料米、エコフィードは必要。ただ、安定した現在の豚の食味やしまりを考えると、良い豚ができるかは疑問で
	処理、調整に労力がかかるため限られた人数の中で作業をこなすのは限度がある。
	入手の困難さと、鮮度の問題
	供給量に対する残渣の調達量、消費期限、臭気
	リキッドの場合、糞尿処理、機械等のメンテナンス(高い)、残渣の安定。※エコフィード認証を受けてもメットが見えな
	肉質、皮質にバラツキが多い。供給量も安定しない。
	安定供給
	豚の飼料として活用するのだから廃棄物扱いはなくすべし。廃棄物の範疇から外れることで全国で活用が推進される。
	実験的に飼養しているので、小規模で少数飼育のため、今後とも利用見込みはない。
	①常時、定量、定率でやるのが難しい。(大量に余ったり、不足したりする。)②チーズブロックでくる場合、粉碎に手間
	取る(ラーメンも)③ブロック状のものをリキッドに入れて送る際配管途中で詰まる。④ラーメン等を、自家配合にする
	齋、一度、荒粉碎する手間がある。⑤自家配合後、エサカーにに入れて、各豚舎に配る手間が面倒くさい。人手、時間がか
	かかる。
	価格があわない。品質保持が困難。
	供給の安定性、給与施設の変更
	量を増やすと格付けが下がる
	取引量が一定しない。
	価格と設備費
	乾燥に手間がかかる。
	市販配合飼料に混ぜられるように
	エコ認定の手続きと、手数料が煩雑で代金が高額すぎる。
	毎日集まる量、魚などに臭いのするものの割合が違う。水分が多いので作業が大変。
	回収・・・外注するとコストがかかるので自社回収が望ましいが、人手が不足すると難しい。保存・・・生ものはその日に
	販売先との契約生産(ブランド化)しているため、使用できる原材料の使用制限がある。

課	題
	販売先との契約生産(ブランド化)しているため、使用できる原材料の使用制限がある。
	母豚のボディコントロール及び栄養不足を補うため、1母豚に対しての袋詰めをし、適正量で添加。栄養不足はサプリメントで対応。1母豚の袋詰めが手間である。
	どのように利用して良いのか不明、検討中。
	コスト
	環境がない。
	肉質に影響を及ぼすエコフィードは、ブランド豚の場合、制約がある。
	大規模農場にほぼ原料をとられ、小規模農場には回ることがない。
	調達方法がわからない。
	情報がない。企業との接点。
	現在使用しているエサ箱は配合飼料しか使用できないタイプなのでエサ箱を設置しなければいけないこと。
	飼料米と同様、自分でしようと思ったらそれに対する設備がある。それと調達先をキチンと見つけられるかが問題
	管理・保管・品質においてトウモロコシよりブレが大きい。穀物をたべさせた方が肉質がうまいと思っている。浄化槽や給飼設備の負担が少ない。
	規模拡大をしたため、人材の育成に精いっぱい、新しいことに取り組む余裕がない。ある程度、確立したものならば個人では作ることも機械導入も無理なので、販売やリースなどがあれば考える
	設備投資も人手もない
	食品残さが少ない地方では取り組みが難しい。また、価格のつり上げにつながる可能性がある。運賃も高いので取り発生量が年々減少してきている
	設備、効果
	成分の安定、手間が問題
	入荷が不定期である。単価が上昇してきている。
	水分量の多い食品残渣を使用したい。チップパー・攪拌機を購入したいのだが、資金不足の為、考慮中である。
	メリットの方が見えない。もし認証された場合、販売先はどうする？

# 国内由来飼料使用実態調査票（平成27年度）

一般社団法人日本養豚協会(JPPA)

## 調査票の記入等について

- この調査票は、養豚生産者の方々の国産飼料用米及びエコフィードの利用実態を教えてください、さらにこれらを利用しやすくするために養豚農業実態調査の一環として調査を実施するものです。
- 飼料用米及びエコフィードを利用していない方も、Ⅰ(1頁)、Ⅱの1及び2(1頁)、ⅢのⅠ及び2(2頁)、Ⅲの11の(2)(4頁)、Ⅳの1(4頁)及び11の(2)(8頁)について記入してください。
- 調査票の記入については、養豚農業実態調査票（平成27年度）の「調査票記入についてのお願い」と同様です。
- また、調査票及び調査結果の取扱いにつきましても、養豚農業実態調査と同様の取扱いをさせていただきますとともに、当協会の「個人情報保護規程」により厳格な管理を行います。

### Ⅰ 経営者等

フリガナ 農場名	※	フリガナ 農場責任者	
※農場名がない方は、無理に記入する必要はありません。			

### Ⅱ 給与飼料

#### 1 飼料給与体系 (○は1つだけ)

- ア ( ) 市販配合飼料のみ (配合割合等を指定してメーカーに配合させたものを含む。)
- イ ( ) 市販配合飼料 + 自家配合飼料
- ウ ( ) 自家配合飼料のみ (単味飼料等(エコフィードを含む。)の原料を調達して自ら配合・調整したもの)

#### 2 年間使用量 (平成26年度)

ア 配合飼料	.....		t
イ 飼料用米	.....		t
ウ エコフィード	.....		t ( ) %
食品残さの加工を行っている場合、食品残さ受入数量	.....		t
エ その他 (具体的な品名と数量を記入)			
( )	.....		t
( )	.....		t
( )	.....		t

#### 【記入上の注意】

○ エコフィードは、食品工場から排出される食品製造副産物(パン屑、とうふ粕等)、スーパーやコンビニ等から排出される余剰食品(賞味期限切れ弁当等)、飲食店等から排出される調理残さ(カット野菜屑等)、農場残さ(規格外野菜等)を原料として、加熱乾燥、発酵、液状化(リキッド)等の加工処理により飼料化したものです。米ぬか、ふすま、油かす、ビートパルプは含みません。自ら、加熱乾燥、発酵、液状化(リキッド)等の加工処理を行っている場合は、食品残さ受入数量も記入願います。

○ 配合飼料の原料にエコフィードが含まれる場合は、「ウ エコフィード」に配合飼料の利用量を記入するとともに、エコフィードの配合割合をカッコに記入願います。

記入例: ウ エコフィード 2000t (10%)

○ MA米を使用している場合には、「エ その他」に記入願います。

Ⅲ 飼料用米 (意図せず配合飼料に含まれるものは除く。)

1 飼料用米の使用の有無について、①から③の中から1つ選択するとともに、①又は②を選択した場合は年数、年間使用量を記入してください。

① ( ) 現在使っている。( 昭和・平成 年 ~、年間  t )

② ( ) 現在使っていないが使ったことがある。

( 昭和・平成 年 ~ 昭和・平成 年、年間  t )

③ ( ) 使ったことはない。(2及び11の(2)に回答願います。)

2 飼料用米の今後の利用意向について、①から⑥の該当するすべてに○印を記入するとともに年間使用量(予定を含む。)を記入してください。

① ( ) 飼料用米の利用を継続したい。

年間  t 程度

② ( ) 飼料用米の利用を拡大したい。

年間  t 程度

③ ( ) 新たに飼料用米の使用を始めたい。

年間  t 程度

④ ( ) 飼料用米の使用割合を減らしたい。

年間  t 程度

⑤ ( ) 飼料用米の使用を中止したい。

⑥ ( ) これからも飼料用米を使用するつもりはない。

3 調達・入手方法

① ( ) 稲作農家、集荷業者・業者等から調達

② ( ) 自ら飼料用米を生産

③ ( ) 配合飼料メーカーから購入

a ( ) 飼料用米として購入

b ( ) 飼料用米を配合した飼料を購入

④ ( ) その他 具体的に：



4 給与形態

① ( ) 粳米

② ( ) 玄米

5 加工・利用形態

(1) 加工の有無

① ( ) あり (2) 及び (3) を回答願います。

② ( ) なし

(2) 加工方法

① ( ) 粉碎・破砕

② ( ) 圧ぺん

③ ( ) その他 (具体的に： )

(3) 配合方法

① ( ) 自ら加工し配合

② ( ) 加工委託したものを自ら配合

③ ( ) 配合飼料として製造を委託

6 飼養ステージごとの給付(配合) 割合

飼養ステージに分け、そのステージごとの給与(配合) 割合を記入願います。

飼養ステージ	給与(配合) 割合(%) (給与する飼料全体に対する飼料用米の割合)
	<input type="text"/> %
	<input type="text"/> %
	<input type="text"/> %
	<input type="text"/> %
	<input type="text"/> %

7 取引価格 (取引があった最新時点 平成  年  月時点)

(1) 買取価格    円/ k g

(2) 加工委託した場合の加工費    円/ k g

・加工委託した場合の加工費は買取価格に含まれますか。 (該当欄に○)

① ( ) 含む。

② ( ) 含まない。

8 費用の負担

それぞれの段階での費用負担者に○印を記入願います。

① 保管 (ア( ) 養豚農家 又は イ( ) 調達先)

② 運搬 (ア( ) 養豚農家 又は イ( ) 調達先)

③ 加工 (ア( ) 養豚農家 又は イ( ) 調達先)

9 飼料用米によるブランド化

(1) ブランド化の有無

① ( ) あり ( (2) 及び (3) を回答願います。 )

② ( ) なし

(2) 出荷・販売

① ブランド名 ( )

② 出荷豚におけるブランド豚の割合  割

③ 枝肉価格 (通常より  割程度高い価格で取引)

④ 小売価格 (通常より  割程度高い価格で取引)

(3) ブランドの特徴・評価

(4) 六次化への取組状況

① ( ) あり



(名称や取扱商品を記入願います。)

② ( ) なし

10 飼料用米に関する情報

飼料用米の供給・提供に関する情報の入手先に○印を記入願います。

① ( ) 所属団体

② ( ) 農協等農業関係団体

③ ( ) 米集荷業者

④ ( ) 地域の農業関係協議会

⑤ ( ) 配合飼料メーカー

⑥ ( ) 普及員等の行政機関

⑦ ( ) その他



具体的に：

11 今後の方針・課題

(1) 今後の方針

① 平成27年度の利用見込み量

					t
--	--	--	--	--	---

② 当面の最大利用見込み量

					t
--	--	--	--	--	---

③ 給与頭数を(a( ) 増やしたい、b( ) 現状維持、c( ) 減らしたい。)

④ 給与割合を(a( ) 増やしたい、b( ) 現状維持、c( ) 減らしたい。)

(2) 飼料米の利用にあたっての課題

1の(1)で「②なし」と回答された方も支障がなければ、記入願います。

IV エコフィード

1 エコフィード利用の有無と今後の意向

(1) 利用の有無

① ( ) あり (2以降を回答願います。)

② ( ) なし (1の(2)、11の(2)を回答願います。)

(2) 今後の意向

① ( ) 現在、利用を検討中 (年間利用予定数量： 

					t
--	--	--	--	--	---

)

② ( ) 今後、利用してみたい。

③ ( ) 利用予定なし



## 2 調達方法

- ① ( ) 食品残さの加工処理を行っているリサイクル業者からエコフィードを購入
- ② ( ) 食品事業者からエコフィード又は原料となる食品残さを入手 (給食センター、病院含む)
- a ( ) 有価で購入
- b ( ) 飼料化料金を徴収
- c ( ) 無償
- ③ ( ) 飼料販売業者(①②を除く。)からエコフィード(これを含む配合飼料を含む。)又は原料となる食品残さを購入
- ④ ( ) その他

具体的に：

## 3 利用しているエコフィードの主な原料の種類

原料のうち主なものを、具体的に記入願います。

### ① 食品製造副産物

### ② 余剰食品

### ③ 調理くず

### ④ 農場残さ

## 4 エコフィードの給与形態

- ① ( ) リキッドとして給与
- ② ( ) ドライとして給与
- ③ ( ) エコフィードを原料に含む配合飼料として給与
- ④ ( ) その他

## 5 認証エコフィードの利用

### (1) 利用の有無

- ① ( ) あり ( (2) の回答を願います。 )
- ② ( ) なし

### (2) 利用銘柄

#### 【記入上の注意】

- エコフィードは、(一社)日本科学飼料協会が運営する「エコフィード認証制度」によって認証された飼料です。  
現在の認証銘柄は、次のアドレスのとおり。  
([http://hashikyo.lin.gr.jp/ecofeed/ecofeed\\_list.pdf](http://hashikyo.lin.gr.jp/ecofeed/ecofeed_list.pdf))

6 飼養ステージごとの給与（配合）割合

飼養ステージに分け、そのステージごとの給与（配合）割合を記入願います。

飼養ステージ	給与（配合）割合（%）（給与する飼料全体に対するエコフィードの割合）
	<input type="text"/> %
	<input type="text"/> %
	<input type="text"/> %
	<input type="text"/> %
	<input type="text"/> %

7 取引価格（平成27年8月1日現在）

複数ある場合は、数量の多い順に3つまで名称・品名も併せて記入願います。

(1) 原料の取引価格

①買取価格

( )  
( )  
( )

価格

円/ kg  
円/ kg  
円/ kg

②飼料化料金徴収価格

( )  
( )  
( )

原料名

円/ kg  
円/ kg  
円/ kg

(2) エコフィードの取引価格

( )  
( )  
( )

名称・品名

円/ kg  
円/ kg  
円/ kg

(3) エコフィードを含む配合飼料の購入価格

( )  
( )  
( )

名称・品名

円/ kg  
円/ kg  
円/ kg

8 食品リサイクル法、廃棄物処理法上の許可等の状況（記入上の注意を参照）

- (1) 既已取得・登録している許可等 ( )
- (2) 取得・登録を検討している許可等 ( )
- (3) 取得・登録を検討したが、断念した許可等 ( )

【記入上の注意（(1)～(3)の記入にあたって）】

- ・次の①～⑦に該当する番号を記入願います。
- ・①～⑦に該当しない場合には、具体的な名称を記入願います。

<食品リサイクル法>

- ①登録再生利用事業者
  - ②再生利用事業計画（リサイクルループ）
- <廃棄物処理法>
- ③一般廃棄物収集・運搬業
  - ④産業廃棄物収集・運搬業
  - ⑤一般廃棄物処分業
  - ⑥産業廃棄物処分業
  - ⑦再生利用指定制度

(4) 許可等を取得・登録する上での課題

既に解決したことを含めて記入願います。

例) 廃棄物処分量の許可を取得したが、処分を行う場所や方法等が適当かどうか行政担当者の判断に時間を要した。

9 エコフィード利用によるブランド化

(1) ブランド化の有無

- ① ( ) あり (2) から (4) の回答を願います。  
② ( ) なし

(2) 出荷・販売状況

- ① ブランド名 ( ) )  
② 出荷豚におけるブランド豚の割合  割  
③ 枝肉価格 (通常より  割程度高い価格で取引)  
④ 小売価格 (通常より  割程度高い価格で取引)

(3) ブランドの特徴・評価

(4) 六次化への取組状況

- ① ( ) あり  
(名称や取扱商品を記入願います)



- ② ( ) なし

10 エコフィード利用畜産物認証の利用

(1) エコフィード利用畜産物制度の利用の有無

- ① ( ) あり  
② ( ) なし



(2) 今後のエコフィード利用畜産物認証制度の利用見込み

- ① ( ) あり (利用見込み時期：平成  年  月頃を予定)  
② ( ) なし

【記入にあたって】

・エコフィード利用畜産物認証制度とは、認証エコフィードを給与して生産した畜産物及び加工品を認証する制度で、(公社)中央畜産会が運営

現在の認証畜産物は、次のアドレスのとおり (<http://ecofeed.iin.gr.jp/useinfo/index.html>)

11 今後の方針・課題

(1) 今後の方針

① 平成27年度の利用見込み量

						t
--	--	--	--	--	--	---

② 当面の最大利用見込み量

						t
--	--	--	--	--	--	---

③ 給与頭数を(a( ) 増やしたい。、b( ) 現状維持、c( ) 減らしたい。)

④ 給与割合を(a( ) 増やしたい。、b( ) 現状維持、c( ) 減らしたい。)

(2) エコフィードの利用にあたっての課題

1の(1)で「②なし」と回答された方も支障がなければ、記入願います。

--

V その他の国内由来飼料

飼料用米、エコフィード以外に利用されている国内由来飼料がありましたら、記入願います。

種 類	年 間 使 用 量	特 記 事 項						
	<table border="1"><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> t							
	<table border="1"><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> t							
	<table border="1"><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> t							
	<table border="1"><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> t							
	<table border="1"><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> t							
	<table border="1"><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> t							

●ご協力ありがとうございました。